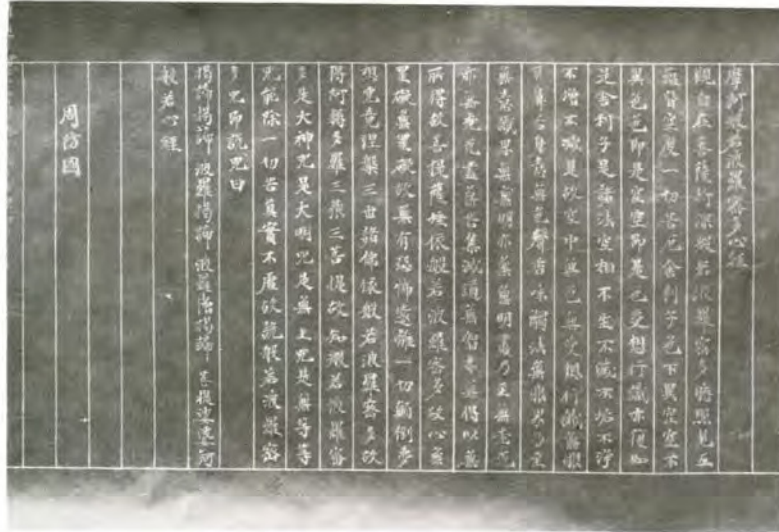


防府史料 第二十三集

周防國分寺文書 二



周防國分寺金堂
(重要文化財佛像などを安置)



紺紙金泥般若心經後奈良院宸翰 1卷
(重要文化財)

(本文一二参照)

目次

五四	大内義長下知狀	天文二十二年閏正月二十日	一頁
五五	重朝・忠本書狀	（八月四日）	同
五六	眞海・頼尊書狀	（十一月二十八日）	同
五七	相良武任・吉見弘成書狀	（十二月十六日）	同
五八	毛利元就書狀（祈念御守事）	（四月二十八日）	同
五九	同（音信事）	（十一月十五日）	同
六〇	毛利元就書狀写（造營事）	（十一月二十三日）	同
六一	毛利元就書狀（年甫事）	（十一月晦日）	同
六二	同（歳暮事）	（十二月二十日）	同
六三	覺圓手日記	弘治三年四月十二日	同
六四	毛利隆元下知狀	弘治三年八月十二日	同
六五	毛利隆元禁制	弘治三年八月十七日	同
六六	毛利隆元書狀（寺領事）	弘治三年十二月二十二日	同

六七	毛利隆元書狀写（祈禱卷數事）	（六月二十七日	五
六八	吉川元春書狀（造營領事）	（正月二十九日	六
六九	右田隆俊本領注文	弘治四年四月二十七日	同
七〇	右田隆俊本地内近年不知行注文	弘治四年六月二日	七
七一	明算坊覺一補任狀	（四月二十五日	同
七二	沙門高珠書狀	（九月十二日	同
七三	毛利輝元禁制	永祿十年八月四日	八
七四	桂元忠等書狀	永祿十年八月五日	同
七五	周防二宮掟写	永祿十年九月五日	九
七六	防府國分寺領・同末寺近年不知行目錄	（	同
七七	毛利輝元禁制	永祿十一年三月三日	一〇
七八	毛利輝元書狀（賊船渡來事）	永祿十二年六月二十八日	同
七九	同（山口動亂事）	永祿十二年十一月十日	一一
八〇	國司元武・桂元忠書狀	永祿十三年正月十一日	同
八一	毛利輝元書狀（右田權現免事）	（正月二十日	同
八二	同（長府國分寺事）	（八月二十七日	同
八三	同（歲暮事）	（十二月五日	一二
八四	同（同）	（十二月八日	同

一〇二	同	(在陣事)	五月二十四日	一七
一〇一	同	(同)	十一月十二日	同
一〇〇	同	(同)	九月二十二日	同
九九	同	(同)	八月七日	同
九八	同	(歸陣事)	八月七日	一六
九七	同	(同)	二月二十三日	同
九六	同	(同)	二月二十日	同
九五	同	(同)	二月十八日	同
九四	同	(同)	二月十八日	一五
九三	同	(同)	二月十五日	同
九二	同	(同)	二月六日	同
九一	同	(年頭事)	正月晦日	同
九〇	同	(改年事)	正月晦日	一四
八九	同	(年頭事)	二月二十二日	同
八八	同	(青陽事)	正月二十日	同
八七	同	(同)	十二月二十六日	同
八六	同	(同)	十二月十八日	一三
八五	同	毛利輝元書狀(歲暮事)	十二月十七日	一二

一〇三	毛利輝元書狀（在陣事）	（六月二十二日）	一七
一〇四	同（同）	（九月晦日）	同
一〇五	同（一二兩社事）	（二月二十三日）	同
一〇六	同（同）	（六月二日）	一八
一〇七	同（同）	（六月二日）	同
一〇八	同（祈念卷數事）	（四月十八日）	同
一〇九	同（在府事）	（正月二十四日）	同
一一〇	同（晉信事）	（四月七日）	一九
一一一	同（長老未補事）	（正月二十一日）	同
一一二	宸筆心經寄進狀	元龜三年五月十四日	同
一一三	毛利輝元書狀（高春後佳事）	天正七年十二月九日	同
一一四	百姓収納注文	天正八年十二月二十六日	同
一一五	内藤元榮等書狀	天正十一年十二月十八日	二〇
一一六	毛利輝元禁制	天正十三年六月四日	同
一一七	寺領寄進狀	天正十三年六月十一日	二一
一一八	桂就宣等書狀	（三月二十七日）	同
一一九	同	（三月二十七日）	二三
一二〇	正親町天皇皇女御歳書	（）	同

一二一	御陽成天皇御歳書	(二三
一二二	周防國分寺寺領付立	天正十七年六月六日		二四
一二三	湯川元常・國司元信書狀	(二月十日		二五
一二四	西大寺高範書狀(興正菩薩三百年忌事)	天正十七年三月二十八日		同
一二五	同	天正十七年九月二十五日		同
一二六	同	天正十七年十一月十五日		二六
	(受戒受法事)	天正十七年十二月一日		同
一二七	毛利輝元書狀写	天正十九年正月二十九日		同
一二八	後陽成天皇繪旨	天正十九年正月二十九日		二七
一二九	後陽成天皇繪旨添狀	天正十九年四月十五日		同
一三〇	西大寺高範書狀	天正十九年四月二十一日		二八
一三一	周防二宮造營領安堵狀写	(九月十八日		同
一三二	高久奎玉補任狀	(十二月十八日		同
一三三	毛利輝元書狀(高久住持事)	(六月八日		同
一三四	同	文祿五年三月十一日		二九
一三五	仁王門建立棟札写	文祿五年三月三十日		同
一三六	毛利輝元書狀(祈念卷數等事)	文祿五年七月七日		三〇
一三七	同	(六月十八日		同
一三八	西大寺高久書狀			

一三九	□久書狀	() 十二月十六日	三〇
一四〇	國分寺坊中加増狀	慶長十年三月二十七日	三一
一四一	後水尾天皇御歳書	()	同
一四二	後水尾天皇御歳書添狀	慶長十七年三月十八日	同
一四三	福原廣俊・榎本元吉書狀	慶長十七年四月十三日	同
一四四	二聖院別當書狀	() 五月三日	三一
一四五	泉涌寺照慶等書狀	() 八月二十三日	同
一四六	同	() 十月十二日	三三
一四七	國司就正・兒玉元恒書狀	() 七月二十八日	同
一四八	景尊英照補任狀	寛永二年二月二十九日	三四
一四九	毛利秀就安堵狀	寛永二年八月十日	同
一五〇	御配所付立狀	寛永二年八月十三日	同
一五一	女院御所奉書	寛永二年十月三日	同
一五二	毛利秀就禁制	寛永四年二月二十八日	三五
一五三	同	寛永四年二月二十八日	同
一五四	同	寛永四年二月二十八日	三六
一五五	佐波郡東佐波令之内坪付帳	寛永四年十月十七日	同
一五六	後水尾天皇繪旨(參内事)	寛永五年八月二十七日	三七

一五七	後水尾天皇繪旨(修造事)	寛永五年九月十四日	三七
一五八	勸修寺經廣書狀(參内事)	寛永五年九月十六日	三八
一五九	同 (造營事)	寛永五年九月十八日	同
一六〇	周防國分寺勸進狀	寛永五年九月	同
一六一	勸修寺家開目内匠助書狀	(六月二十六日	四〇
一六二	防州國分寺奉加帳	(八月一日	同
一六三	吉川家奉加狀	(十一月十二日	四一
一六四	井原彦右衛門等書狀	(十一月九日	同
一六五	防州國分寺奉賀帳	()	四二
一六六	明正天皇御歳書	()	同
一六七	大乘經寄進狀	寛永七年十一月十三日	同
一六八	毛利秀就誓願狀	寛永九年九月十八日	四三
一六九	毛利秀就書狀(改年事)	(正月三日	同
一七〇	同 (同)	(正月十九日	四四
一七一	同 (同)	(正月二十日	同
一七二	同 (同)	(二月十六日	同
一七三	同 (歸城事)	(八月五日	同
一七四	同 (同)	(十月三日	四五

一七五	毛利秀就書狀(痘煩事)	()	二月三十日	四五
一七六	同	(兩種進送事)	()	同
一七七	同	(祈念守札等事)	()	同
一七八	同	(玄春差遣事)	()	同
一七九	佐波郡東佐波令之内坪付帳		十一月十五日	四六
一八〇	周防國分寺境内坪付帳		寛永十五年九月九日	同
一八一	祈念覺書		()	五二
一八二	毛利秀就立願狀		五月	同
一八三	大般若信讀料請取狀		寛永十六年二月吉日	五四
一八四	祈念料請取狀		寛永十六年二月吉日	五五
一八五	重隆等書狀		寛永十六年八月五日	五六
一八六	周防國分寺護摩堂建立文写		寛永十六年九月五日	同
一八七	法皇女院奉加狀		()	五七
一八八	益田就利等書狀		七月二十五日	同
一八九	國分寺本堂建立棟札写		寛永十七年九月吉日	五八
一九〇	後光明天皇御歳書		()	同
一九一	毛利千代熊祈念狀		九月十七日	五九
一九二	毛利秀就書狀(千代熊御目見事)		寛永十九年九月吉祥日	同
			()	同
			六月吉日	同
			正保三年三月二十六日	六〇

一九三	毛利秀就書狀(千代熊御目見事)	(六月十九日)	六〇
一九四	同 (同)	(八月二十七日)	六一
一九五	同 (千代熊祈念事)	(十一月十五日)	同
一九六	同 (千代熊誕生日事)	(十一月二十日)	同
一九七	堅田就政書狀	明暦元年十月十一日	同
一九八	同	(九月二十七日)	六一
一九九	毛利就方等書狀	萬治二年二月二十九日	同
二〇〇	毛利就方書狀	(九月十八日)	六三
二〇一	長玄坊英意補任狀	寛文二年三月十六日	同
二〇二	毛利就信等書狀	寛文六年九月八日	同
二〇三	靈元天皇綸旨	寛文七年五月二十六日	六四
二〇四	勸修寺經廣書狀	寛文七年六月五日	同
二〇五	靈元天皇御歳書	寛文七年六月五日	同
二〇六	泉涌寺役者我休・孤雲書狀	延宝三年十月十三日	六五
二〇七	寺領高帳	()	同
二〇八	川野高邦・三宅高喜書狀	(七月二十三日)	六六
二〇九	周防國分寺被官中間石役除證文	貞享二年五月十日	同
二一〇	東山天皇御歳書	貞享四年八月二十四日	六七

二二一	興正菩薩四百年忌觸狀	元祿元年十一月二十五日	六七
二二二	東山天皇繪旨	元祿二年六月十四日	六八
二二三	勸修寺經廣書狀	元祿二年七月六日	同
二二四	御座船造替祈禱覺	元祿二年	同
二二五	長壽院歳書	（	六九
二二六	東山天皇女房奉書	元祿四年五月二十一日	同
二二七	靈元上皇女房奉書	元祿五年三月二十八日	同
二二八	慈元照崗補任狀	元祿五年九月二十三日	同
二二九	同	元祿六年五月三日	七〇
二二〇	毛利吉廣歳書	（	同
二二一	東山天皇女房奉書	元祿七年六月二十六日	同
二二二	靈元上皇女房奉書	元祿七年六月二十八日	七一
二二三	寶幢院營作願	元祿八年正月八日	同
二二四	乃美三郎兵衛等書狀	元祿八年正月十七日	七二
二二五	乃美三郎兵衛等寺領目錄裏書	元祿八年正月十七日	同
二二六	佐世廣久立願文	元祿九年正月二十二日	七三
二二七	手石鉢金石文	元祿十年五月 日	七四
二二八	照玉補任願狀案文	元祿十年九月十六日	同

二二九	國司廣直・毛利就直書狀	元祿十年十月二十七日	七四
二三〇	毛利昌方歳書	元祿十年十一月一日	七五
二三一	東山天皇女房奉書	元祿十一年三月二十九日	同
二三二	靈元上皇女房奉書	元祿十一年四月二日	同
二三三	萩城内乘輿免許狀	元祿十一年五月九日	七六
二三四	乘輿免許狀	元祿十一年五月九日	同
二三五	乘輿免許狀	（三月八日	同
二三六	東山天皇女房奉書	元祿十二年五月八日	七七
二三七	靈元上皇女房奉書	元祿十二年五月八日	同
二三八	同	元祿十三年四月三日	同
二三九	慈門房照玉補任狀	元祿十四年五月一日	七八
二四〇	東山天皇女房奉書	元祿十四年五月二十日	同
二四一	東山天皇繪旨	元祿十六年五月二十二日	同
二四二	勸修寺尹隆書狀	元祿十六年五月二十八日	七九
二四三	中御門天皇御歳書	寶永八年二月十六日	同
二四四	毛利吉元歳書	（	八〇
二四五	潮音寺觀音堂再建棟札写	正德五年五月二十九日	同
二四六	鐘樓門再建棟札写	正德五年十一月	同

二四七	□覺和尚傳	（	八一
二四八	照玉隱居願狀	享保六年九月二十二日	八二
二四九	山内廣通・完戸廣恒書狀	享保七年二月六日	同
二五〇	中御門天皇綸旨	享保十年五月十五日	同
二五一	權中納言書狀	享保十年六月七日	八三
二五二	中御門天皇綸旨	享保十年八月十二日	同
二五三	石燈爐金石文	享保十二年十二月	同
二五四	毛利宗廣歲書	（	八四
二五五	毛利宗廣參詔諸控	享保十九年五月二十一日	同

五四 大内義長下知狀

防州國分寺領散在中守護使違亂停止事、任當家代々下知之旨、堅所加制止也、仍狀如件

天文廿二年閏正月廿日

(大内義長)
大内介(花押)

八月四日

國分寺知事
上人

重朝(花押)
忠本(花押)

五六 眞海・頼尊書狀

一筆令啓達候、貴刹彌無相替事可爲御務、珍重存候、當山無異變候、然者從來三月十六日至廿日別受戒會令沙汰候、未受戒衆輩登壇受戒可有之候、爲其如此候、恐々謹言

十一月廿八日

法事監

增長院
眞海(花押)
寶泉院
頼尊(花押)

國分寺

五五 重朝・忠本書狀

當寺與法花寺中間御所地事、自當毛可有御寺務候、但築地等者相構損候ハぬ様に可有御沙汰候、猶々今ハ無御用候之間、先自寺家可有御知行之由仰候、其子細山口へも申候、恐々謹言

五七 相良武任・吉見弘成書狀

就國分寺知事役之儀、以條々御申之通具達披露、御返事之趣以條數申候、猶委細土肥平左衛門尉申含候、恐々謹言

十二月十六日

(相良)
武任(花押)
(吉見)
弘成(花押)

目代殿

五八 毛利元就書狀

(就正)
對南方宮内少輔御狀令披閱候、被達祈念、御守送給候、頂戴候、殊毎月御懇意之至候、此方無沙汰之段心外候、尙從是可申述候、恐々謹言

卯月廿八日
國分寺 週報
卯月廿八日 元就(花押)

五九 毛利元就書狀

爲御音信卷數并鳥目百疋送給候、御懇之儀祝着之至候、何茂重疊可申述候、恐々謹言

十一月十五日

防府
國分寺
週報

元就(花押)

六〇 毛利元就書狀写

當寺之儀令破壞條、諸方以勸進可有造營之由承知候、雖然、此表在陣中之儀尤可有御待候、以歸陣之上涯分可令助力之

條、可被成其沙汰候、猶桂左衛門太夫可申候、恐惶謹言

十一月廿三日

元就

國分寺

廻報

重疊明春頓可申候、恐々謹言

極月廿日

元就(花押)

國分寺

御返章

六一 毛利元就書狀

六三 覺圓手日記

年甫之御祝儀珍重々々、抑百正令進獻之候、誠表嘉候

(後欠)

十一月晦日

元就(花押)

國分寺

御返答

手日記

防府

國分寺

一 佛殿修造足、中川原倉成名土貢米五石單、從去々年西条

牢人衆御切方也、但可被成御還補奉書有之事

一同足、奈美村法興寺免壹町余、并二宮差田貳段之地、近

年陶殿陶殿內鮎川左馬助押領之事

一 富田保鬼武名三石足、近年陶殿衆押務之事

一 法花會祠堂足、佐波令內五石足田畠、御家人從去天文廿

一年江木方押務之事

一 吉敷郡淺田保千代丸差貳段、近年長梅軒押領之事

一 院內道見名三段半、同屋敷、從去天文廿二年飯田殿押務

六一 毛利元就書狀

爲歲暮之儀被遂祈念、卷數并兩種到來祝着至極候、猶吉事

之事

一 熊毛郡三井村安田保四町、去々年以來不知行也、定而可被宛行人給之条、於爰元代地申請度之事

一 吉敷郡小野保内法花寺領貳町貳段、并矢田令内二宮御供田三石足、近年問田殿大方押務之事

一 佐波令差田二宮免三段、近年陶殿衆押領之事

一 禪光院抱枳部山觀音堂修理田國方壹町六段、自去年陶殿内伊香賀太郎方押妨之事

一 藏坊抱田嶋庄内稻荷免、同如法經田島、從去天文廿年一亂之刻、小野縫殿助方不能子細押務之事

一 下得地小祖武光名五段、近年陶殿押務之事

一 末寺妙法寺領半濟分五石七斗五升足、從去二月對竹田伴大和入道新儀被遣候事

一 同驗觀寺、近年陶殿依押妨不知行之事

一 同本覺寺十五石足、近年陶殿大方勸落之事

一 同安樂寺抱 大琳寺者安樂寺押領也
深廣寺者西方寺押領也 依之近年不知行之事

以上

右所々有子細、自往古無相違知行之處近年依被押妨之、及

伽藍顛倒御祈禱斷絕候之条、此節如前々預還補之御下知候者可爲御祈禱專一候、仍手日記如件

弘治三年丁巳三月廿日

國分寺知事一室
覺圓(花押)

(裏書二) 右前令披露候、當國所帶裁判當時無之候条、於其節被企再訴候者可取沙汰之旨、依仰裏判如件

弘治三年
卯月十二日

桂左衛門大夫
元忠(花押)
兒玉三郎右衛門
就忠(花押)
赤川左京亮
元保(花押)

六四 毛利隆元下知狀

防州國分寺并法華寺領散在中、守護使違亂停止事、任當家代々下知旨、猶加炳誠之狀如件

弘治三年八月十二日

(毛利隆元)
備中守(花押)

六五 毛利隆元禁制

花押 (隆元)

禁制

防府

國分寺

法花寺

一寺中坊室并院内舍宅等之四壁、竹木垣以下切破取事

一寺院內山野竹木採用堅停止之事

一奥山爲受用、他郷之者院内道出入禁制事

已上

右三箇條堅加制止畢、若有違犯之族者可處嚴科者也、仍下知如件

弘治三年八月十七日

(右衛門大夫) 右衛門大夫 (花押)

(右京亮) 右京亮 (花押)

(右衛門尉) 右衛門尉 (花押)

(右京亮) 右京亮 (花押)

六六 毛利隆元書狀

(桂元忠)
左衛門大夫 (花押)

國分寺領之儀、右田伊豆守押妨之由候、不可然候、早々還補候様二可申理候、謹言

十二月廿二日

隆元 (花押)

(上書二)

弘治三年

十二月廿二日

隆元

桂左衛門大夫殿
藥屋右京亮殿
兒玉三郎右衛門尉殿
赤川左京亮殿

六七 毛利隆元書狀写

尊書到來令拜讀候、抑愛染明王法千庫御卷數送給候、謹而頂戴満足候、彌於向後御祈禱所仰候、次長州之内國分寺後

住職之事、對奎玉房被差定之由令承知候、於我等不可有余儀候、猶彼僧任演舌候、恐々謹言

六月廿七日

隆元

西大寺
知事論師尊答

六八 吉川 元春書狀

防府國分寺本堂造營領之儀、言上之子細有之由候、彼寺家之事相易自余在所候、殊ニ近年別而馳走之儀候、何篇可然之樣可被申調事肝要候、委細者知事可被申候、恐々謹言

正月廿九日

吉川
元春(花押)

國司右京亮殿 御宿所

六九 右田隆俊本領注文

佐波郡右田保内隆俊本領當知行差出之事

隆俊本領差出案文

合

七丁六反半四十步 公田 百姓名也

八丁三反半 公田

二丁五反 公田

以上

寺社并隆俊被官等給分也
從隆俊家對陶家割分地也

右差出之狀如件

弘治四年
四月廿七日

大藏殿

吉原刑部丞殿

其外御檢者中

御郷美濃守
俊郷

七〇 右田隆俊
本地内近年不知行注文

隆俊〔右田〕本地内近年不知行注文

楳杜押領也

一五十石足

桂兵部丞方押領也

一五十石足

内藤左衛門方押領也

一廿廿石足

一七十石足

一百石足

一三十六石足

一四十五石足

以上

令披露候訖

六月二日

遺削〔周防〕

楳杜

吉敷郡

勝井村

長州豐西郡

河棚庄

豐前京都郡

久保吉田庄

豐前宇佐郡

院内山城分

同

金出

平地

正稅未納也

國司右京亮〔元相〕〔花押〕

兒玉三郎右衛門〔就忠〕〔花押〕

七一 明算坊覺一補任狀

國分寺住持職之事、明算房覺一令補任候、早々被達入院眞俗興行可目出候、恐々謹言

卯月廿五日
防州 國分寺

沙門高珠〔花押〕

〔中興二十六世一紹道岸 文祿六年四月十八日歿
中興二十七世明算覺一 元龜二年七月二十九日歿〕

七一 沙門高珠書狀

態令啓候、抑開講以降、諸國諸末寺於南都受戒之所望雖有之、依遠境於其國受法之事、一國一寺之寺院、金光明國分

寺戒律興行之本願、聖武天皇御願所、余寺無雙之依爲靈場、
往代之任密契、受戒受法之儀可有其沙汰之旨令許可候、若
於無其儀者、至南都可被遂其節事尤以可然候、併戒法不退之
洪基、一家繁昌之專要二候、恐々謹言

九月十二日

沙門高珠（花押）

七三 毛利輝元禁制

防州國分寺并法華寺領散在中、守護使違亂停止之事、任去
弘治三年八月十二日隆元證判^{旨紙}之、猶加柄誠之狀如件

永祿十年八月四日

輝元（花押）

七四 桂元忠等書狀

（毛利輝元
（花押）

當寺領中河原倉成出米五十石事、任先證之旨、爲本堂造營
料被成御免許候、永代不可有相違之条、無油斷御修造可爲
肝要之旨被仰出候、可被得其心候、恐々謹言

永祿十
八月五日

國司右京亮

元武（花押）

業屋彌太郎

元勝（花押）

兒五三郎右衛門尉

元良（花押）

桂上總介

元忠（花押）

防府
國分寺 知事御中

七五 周防二宮掟写

于時明治廿九年六月十七日

右社祠社惣代兩三名登山、當寺及惣代立會上引渡候故、將來彼之方被是申來候共更ニ關係之處屹度無之候也

掟

周防國二宮

一大乘經大般若經可爲社頭不出、但懇望借用之時者國分寺

代宮坊令執沙汰、備破損料、件御經可修補之事

一鐘太鼓祭道具等從宮坊可被守護之事

一社邊掃除爲神主役、對神人等每月相觸之、可清淨堅固事

一竹木採用之事

一於社邊不可繫牛馬事

右條々任先例令裁許畢、若有違亂之輩者可處嚴科者也、仍下

知如件

永祿十年九月五日

輝元 在判

右正御判恐紛失亂墜、當時寶藏仁納置者也

寛文八年七月廿一日 國分寺住持沙門英意(花押)

右本書近々請求ニ付今回彼出雲神社返却致シ預書交換之事

七六 防府國分寺領

同末寺近年不知行目錄

防府國分寺領、同末寺近年不知行目錄

一本堂修造料所奈美村法興寺免三石足、并二宮差田貳反當

時山口真如寺進退之事

一同料田高井村五反但領檢地以來田數增云々近年兒玉惣右衛門尉殿進止

之事

一同料田下得地小祖村武光名五反、當時吉見殿押領之事

一同料所富海保三町九反大元壹町七反六十步內現田九反半、當時武

光方進止也、其外現作所多分人給被宛行也、殘寺家分依

爲永否川成、一向無所務事

一同料所富田鬼武名壹町、近年不知行之事

一 同料田熊毛郡三井村三石足、近年不知行之事

一 同郡安田保關屋村拾石足、近年不知行之事

一 同修造料吉敷郡淺田千代丸差田貳反、當時長梅軒進止之

事

一 戶田郷菖蒲坪五反號傳ニテ近年不知行也、雖然於天滿宮御

受戒之儀式者于今令執行之事

(此先紙切)

(異書)

(元正) 元良(花押)

(柱) 元忠(花押)

七七 毛利輝元禁制

禁制

周防國分寺

一 於寺中諸人止宿事

一 於寺內馬庭乘、同鞍馬出入事

一 於寺邊殺生事

右三ヶ条堅固加制止訖、若有違犯之族者可處嚴科者也、但

止宿之事者依時宜、至令裁許者非制限、仍下知如件

永祿十一年三月三日

輝元(花押)

七八 毛利輝元書狀

頃賊船罷渡候節(候由波間)南方宮(元正)內少輔事至右田差下候、被相談馳
走肝要候、去々年茂爲始藏坊、旁入魂之通此者申候、祝着
之至候、何茂重而可申之条不能詳候、恐々謹言

(永祿十二年) 六月廿八日

防州 國分寺

輝元(花押)

七九 毛利輝元書狀

今度山口^(國助)動亂付而別而馳走之段具承知候、彌向後忠儀肝要候、猶右京亮可申候、恐々謹言

(本讀上) 霜月十日

輝元(花押)

八〇 桂元忠等書狀

去年山口動亂之刻、當寺御馳走之段無比類候、然者爲其喪美、法花寺半濟米參石五斗之事被成御還補候、永代全寺務、修造御祈念別而可被抽精誠之旨被仰出候、恐々謹言

(永祿十三) 正月十一日

(國司右京亮) 元武(花押)

防府
國分寺

桂上總介
元忠(花押)

八一 毛利輝元書狀

右田權現免之事、從國分寺證文差出、申理之通無余儀候条如前々無相違國分寺裁判肝要候、此由可申与候、謹言

(上書二) 正月廿日

輝元(花押)

八二 毛利輝元書狀

長府國分寺・律成寺近年不會之由候、今度於當寺灌頂已前被兩寺和合之儀被申調、各以隨喜法事成就肝要候、尙國司

助六可申候、恐々謹言

八月廿七日

輝元(花押)

(上書二)

防府
國分寺

輝元

八三 毛利輝元書狀

爲歳暮之祈念被抽精誠、卷數并鳥目百疋送給候、快然候、
猶從右京亮所可申候、恐々謹言

十二月五日

輝元(花押)

防府
國分寺

八四 毛利輝元書狀

爲歳暮之儀、卷數并百疋到來令祝着候、尙期後喜候、恐々

謹言

十二月八日

輝元(花押)

國分寺

八五 毛利輝元書狀

爲歳暮之儀、卷數鳥目百疋被送越之、懇意喜悅之至候、明春
慶事可申述候、恐々謹言

十二月十七日

輝元(花押)

防府國分寺知事

八六 毛利輝元書狀

爲歲暮之儀被送精誠、卷數并百疋送給候、欣然之至候、猶期慶事候、恐々謹言

十二月十八日

輝元(花押)

國分寺

八八 毛利輝元書狀

爲青陽之御慶、卷數并青銅百疋送給候、畏悅之至候、猶吉事期永日候、恐々謹言

正月廿日

輝元(花押)

防州
國分寺
廻報

八七 毛利輝元書狀

爲歲暮之儀、卷數并百疋送被越候、令祝着候、猶從國司右京亮所可申候、恐々謹言

十二月廿六日

輝元(花押)

國分寺

知事

八九 毛利輝元書狀

爲年頭之儀、誠精卷數并百疋送給候、芳情難申盡候、彌懇祈不及申候、猶從國司飛驒守所可申候、恐々謹言

二月廿二日

輝元(花押)

國分寺

九〇 毛利輝元書狀

爲改年之儀、卷數并鳥目百疋送給候、祝着之至候、猶國司
右京亮可申候、恐々謹言

正月晦日

國分寺

輝元(花押)

九一 毛利輝元書狀

爲今年之儀、祈念之卷數謹而頂戴令満足候、仍百疋送給快
然之至候、猶期永日候、恐々謹言

二月六日

防府
國分寺

輝元(花押)

九二 毛利輝元書狀

爲年頭之儀、卷數并百疋送給候、祝着候、尙慶事期永日候、
恐々謹言

正月晦日

國分寺

輝元(花押)

九三 毛利輝元書狀

爲年頭之儀、卷數并百疋到來祝着候、尙慶事期永日候、恐々
謹言

二月十五日

國分寺

輝元(花押)

九四 毛利輝元書狀

爲改年之儀、卷數并百疋令祝着候、猶期永日候、恐々謹言

二月十八日

國分寺

輝元(花押)

九六 毛利輝元書狀

爲當春之儀、卷數并百疋到來候、祝着之至候、每事御懇祈
頼申候、猶期後音候、恐々謹言

二月廿日

國分寺

輝元(花押)

九五 毛利輝元書狀

爲年頭之儀、御祈念之卷數并百疋到來欣然之至候、猶期永
日候、恐々謹言

二月十八日

防府
國分寺

輝元(花押)

九七 毛利輝元書狀

爲年頭之儀、卷數并百疋被送越候、祝着之至候、猶委細從
國司右京亮所可申候、恐々謹言

二月廿三日

國分寺

輝元(花押)

九八 毛利輝元書狀

一〇〇 毛利輝元書狀

就歸陣之儀、百疋到來祝着候、猶從國右所可申聞候、謹言

八月七日

國分寺知事

輝元（花押）

就爰元歸城之儀、卷數并百疋送給候、快然之至候、巨細從國司右京亮所可申候、恐々謹言

九月廿二日

國分寺

輝元（花押）

九九 毛利輝元書狀

一〇一 毛利輝元書狀

就歸陣之儀、卷數并百疋被送越候、祝着之至候、猶國

右可申候、恐々謹言

八月七日

國分寺

回報

輝元（花押）

就歸陣之儀被示越候、殊祈念之卷數并百疋到來喜悅之至候、猶期來音候、恐々謹言

霜月十二日

國分寺

（花押）

一〇二 毛利輝元書狀

就在陣、祈念之卷數并百疋到來令祝着候、猶期來喜候、恐々謹言

五月廿四日

輝元(花押)

國分寺

一〇四 毛利輝元書狀

在陣祈念被遂其節卷數送給候、謹頂戴令満足候、殊菓子一折到來欣然候、尙期後慶候、恐々謹言

九月晦日

輝元(花押)

國分寺

一〇三 毛利輝元書狀

爲在陣祈念、御卷數并百疋送給候、令祝着候、猶委細從右京亮所可申候、恐々謹言

六月廿二日

輝元(花押)

國分寺

一〇五 毛利輝元書狀

於一二兩社ニ祈念申付候間、此之通大宮司ニ可被仰聞候、恐々謹言

二月廿三日

右馬 輝元(花押)

隆春 參 申給へ

內藤左衛門大夫殿

一〇六 毛利輝元書狀

於一二兩社御神前、被遂御祈念之卷數御供等送給之、謹而致頂戴候、猶以無懈怠可被抽懸祈事肝要候、重々可申述之間不能審候、恐々謹言

六月二日

輝元(花押)

國分寺
回報

一〇八 毛利輝元書狀

御精誠之卷數送給候、頂戴誠令満足候、殊百疋御懸意之段本望存候、吉事重疊可申承候、恐々謹言

卯月十八日

輝元(花押)

國分寺

一〇七 毛利輝元書狀

國分寺事、於兩社御神前被遂祈念卷數到來候、祝着之通直令申候、尙被得其意可被相達之候、恐々謹言

六月二日

輝元(花押)

一〇九 毛利輝元書狀

就在府、祈念之卷數并百疋到來令祝着候、猶期來喜候、恐々謹言

正月廿四日

輝元(花押)

國分寺

一一〇 毛利輝元書狀

爲普信兩種到來快悅候、委曲從國右^可右京亮所可申候、謹言

卯月七日

防府
國分寺知事

輝元〔花押〕

一一二 宸筆心經寄進狀

奉寄進

紺紙金泥心經一卷

右防州國分寺之伽藍于納置者也

元龜三年五月十四日

〔新羅寺〕
光豐

一一一 毛利輝元書狀

當寺之事今程長老未補之條、惣寺取沙汰之儀別而可被遂馳
走候、猶國司右京亮可申候、恐々謹言

正月廿一日

輝元〔花押〕

〔上書二〕
〔防府國分寺〕
〔室知事〕

當寺長老高春大德事遠行候由不及是非候、後住之儀重而可
相定候、次百正到來欣然候、猶從國司右京亮所可申候、
恐々謹言

一一三 毛利輝元書狀

(天正七年)

十二月九日

國分寺僧衆中

(中興二十八世高春圓照 天正七年十二月五日歿)

輝元(花押)

壹石一斗
三斗

都合 壹石四斗
都合 五石二斗五升

室屋
惣衛門

一一四 百姓収納注文

一一五 内藤元榮等書狀

(前文厥)

領之事、不慮之動亂分云、角無申事、天下一同之於御德政者、以理之上可任世間之並候、爲後日證據、懇認遣候者也

天正八年庚申拾貳月廿六日

東室 高玉 押字

引渡申百姓収納注文

恒岡抱分

壹石八斗

同人

一石四斗

御鄉分

貳斗五升

太郎右衛門分

合 三石八斗五升

(毛利輝元) (花押)

今度當寺領被成御檢地、半濟被仰付候、相殘寺領并方丈分之事、如前々不可有相違候条、全有寺務、彌御祈禱可被抽

誠精事可爲肝要候由可申之旨候、恐々謹言

極月十八日

國司助六 元藏(花押)

堅田三郎左衛門 元乘(花押)

兒玉市祐 元貫(花押)

兒玉三郎右衛門 元良(花押)

内藤与三右衛門 元榮(花押)

防府
國分寺

一一六 毛利輝元禁制

禁制 防州國分寺并法花寺
(毛利輝元) 安樂寺惣寺領中

- 一 於寺中、從年始御祈禱付而入來聽聞之仁、喧嘩口論曾停止之但、於狼藉之族者御家人双方可被成御下知事
- 一 於寺中、無裁許は甲乙之仁止宿停止之、若有子細裁許者寄宿之時、女人不可寄宿之、何茂無猥可守此旨事
- 一 於寺家寺領、夜盜惡黨出來之時者勿論、喧嘩口論之於子細者頓不可一途之、從寺家任注進之、可被成御下知事
- 一 於寺領山野、竹木採用并土石以下聊以停止之
- 一 付、百姓耕作付而苟執之牛馬於私曲者相應之咎可申付事
- 一 於寺內、殺生禁斷場乘以下高聲無益事、諸篇停止之事

右条々加制止畢、若背此旨、於違犯輩者可處嚴科者也、殊勅願所云御祈禱所、依仰下知如件

天正十三年六月四日

- 國司 (元式) 右京亮 (花押)
- 栗屋 (元棟)
- 內藏丞 (花押)
- 兒玉 (元實)
- 市九 (花押)
- 內藤 (元榮) 与三右衛門 (花押)
- 兒玉 (元茂) 三郎右衛門 (花押)
- 栗屋 (元茂) 掃部助 (花押)
- 桂 (元直) 左衛門大夫 (花押)

一一七 寺領寄進狀

防府國分寺領坪付之事、并法花寺領之事

- 一 院內之事、并中河原之事
- 一 倉成之事、并打渡眞言田之事
- 一 右田之事、小野・矢田・朝倉之事

一 富海・矢地事、付下得地二宮宮坊寄進之事

已上

戸田傳申候成領天神御在世之時寄進之、御判之地三百八拾六石四年五升當知行也

右之前抱所、從前々至于今當寺領無紛所、御檢地以後寺得分御判有之、然者今度隱地之事堅雖可被相究之、對當住高久被成寄附所如件

天正十三年六月十一日

國司右京亮

元武(花押)

内藤与三右衛門

元榮(花押)

兒玉市丸

元貫(花押)

堅田三郎左衛門

元乘(花押)

粟屋内藏丞

元種(花押)

兒玉三郎右衛門

元良(花押)

〔粟屋掃部助

元眞(花押)

桂左衛門大夫

就宣(花押)

一一八 桂就宣等書狀

〔毛利種元

(花押)

防府國分寺方丈領八段田之事、先度至爰元藏坊罷上之中名主職事依申妨之、今度住持參上之砌、言上趣具途披露候之處、被成御分別候、如前々無相違長老坊可有寺務之通被仰出候、爲向後被加袖御判候、不限此条、何篇對寺家不儀之子細候者、堅可被加御下知候間可被得其心候、恐々謹言

三月廿七日

國司右京亮

元武(花押)

兒玉三郎右衛門尉

元良(花押)

兒玉市丸

元貫(花押)

内藤与三右衛門

元榮(花押)

桂左衛門大夫

就宣(花押)

助府
國分寺方丈

一一九 桂就宣等書狀

(毛利輝元)
(花押)

當寺之事、今度高久被成入院候条尤珍重候、何篇無緩勤行
掃除等堅固被仰付、興隆佛法可爲專要候、此外寺官百姓等、
於寺內雅意狼藉不儀之子細候者、何時茂可被加御下知候、
爲其被成袖御判候条可被得其心候、恐々謹言

三月廿七日

國司右京亮
元武(花押)
元良(花押)
元貴(花押)
元榮(花押)
元宣(花押)

防府
國分寺方丈

一二〇 正親町天皇皇女御歲書

天正三亥乙 御歲女
八月七日御誕生
永祿六亥癸 御歲女
三月八日御誕生

(花押)

一二一、後陽成天皇御歲書

今上御誕生日
元龜二年辛未
十二月十五日

(勸修寺)
光豐(花押)

一一三一 周防國分寺寺領付立

周防國佐波郡國分寺領目錄之事

合

一米三拾石四升	方丈領
一米五石六升	一室領
一米五石	二室領
一米五石	三室領
一米五石壹斗	東一室
一米五石貳合	東二室
一米四石九斗八升六合	禪光院
一米五石貳升六合	寶幢院
一米四石九斗九升	地藏院
一米五石壹升	善悅院
一米四石九斗八升八合	藏坊

一米四石九斗六升八合

法花寺

以上米八拾五石壹斗八升坊領分

一米五拾貳石五斗三升

年中行方

一米拾貳石七斗八升

同護摩料

內三石三斗六升都濃郡持留有之

一米五拾石三升

造營領

以上

并米貳百石五斗貳升

右付立如件

天正拾七年六月六日

國分寺

湯川(元常) 平左衛門尉(花押)
 長井(元親) 右衛門大夫(花押)
 國司(元信) 雅樂允(花押)
 內藤(元基) 余三右衛門尉(花押)

一二三 湯川元常・
國司元信書狀

防府國分寺領下作中、名主以下御檢地辻否之儀共申相妨仁候哉、太不可然候、所詮今度之以御帳面之、堅固可有寺務候、自然賣地質物等出入在之間敷候、惣國御改之事候條不可有異儀候、殊更寺僧衆被申分候は被召上せ可被加御下知候、此之由堅可被仰渡候、恐々謹言

二月十日

(湯川)

平左

元常(花押)

(國司)

雅

元信(花押)

防府
國分寺
知事

一二四 西大寺高範書狀

好便喜令啓候、抑來八月開山菩薩三百年之御忌候、就夫舞樂曼茶羅供可有執行之旨候、尤被盡報恩謝德之懇念、可勵濟生利物之御願事專一候、然者貴寺以下之諸末寺等悉以被相催上洛可然候、殊更貴僧之儀ハ寺役勤仕之躰自余相異成儀候、御檀方各へ被得其意、法事以前被達上國候者尤可爲令法久住之興基候、恐々謹言

(天正十七年)

三月廿八日

沙門高範(花押)

國分寺 御侍者中

(興正菩薩叡尊 正応三年(二九〇)八月二十五日歿)

一二五 西大寺高範書狀

就當寺開山菩薩三百年忌、遠路上洛之儀誠以神妙之至不及是非候、然者法事之儀式、連日顯密之取沙汰、令法久住之御懇念異他儀候、殊更當日世俗悉御馳走、偏御報恩謝德之追福、尤御意願可被相叶候、恐々謹言

(天正十七年)
九月廿五日
助長
兩國分寺 侍者御中

沙門高範(花押)

一二六 西大寺高範書狀

貴寺受戒授法等之事、并住持皆香衣之儀、先住高珠和上有許可之段、先書明白淵底弥々分別無異儀候、自往代當宗之

儀者至諸末寺聊雖無其儀候、于他異成子細付而如是候、殊毛利大江朝臣輝元御一通令披覽候、末代之龜鏡無比類儀候、誠興隆佛法宗繁昌之專要、猶以壇命長久眞俗圓滿可爲珍重候、恐々謹言

(天正十七年)
十一月十五日
國分寺高久律師 侍者御中

沙門高範(花押)

一二七 毛利輝元書狀写

防州佐波郡牟礼之内參拾八石足之事、任打渡之旨宛遣候、全令知行役目等不可有緩者也、仍一行如件

天正拾七年十二月一日

(毛利輝元花押(黒印))

一二八 後陽成天皇綸旨

謹言

〔天正十九年〕
正月廿九日

防州
國分寺高久和尚

〔勸修寺光豐〕
紹可〔花押〕

今後參内之事被聞食訖、彌天下安全寶祚長久御祈可抽精誠
之由者、天氣如此、仍執達如件

天正十九年正月廿九日

〔勸修寺光豐〕
左少辨〔花押〕

防州
國分寺和尚

〔書三〕
防州
國分寺和尚

左少辨光豐

一三〇 西大寺高範書狀

今度御在寺中有參内、被成綸旨候趣令拜見候、誠御面目無
比類之段千秋万歳候、愈兩國分寺繁昌、可爲律法弘通事珍
重候、恐々謹言

〔書三〕
天正十九年

卯月十五日

防長
兩國分寺

沙門高範〔花押〕

一二九 後陽成天皇綸旨添狀

今度被參内申候之儀尤珍重候、彌國家安全御祈禱可被抽精
誠之旨被成綸旨候、猶相心得可申之由内々被仰下候也、恐々

一三二 周防二宮造營領

安堵狀写

防州庄方二宮造榮領事、今度令檢地相定參拾五石餘乎并神田宮司領十石六升餘、任打渡旨永令執務社役可相勤者也、仍一行如件

天正十九年卯月廿一日

宮司二室

御兩判

一三三 高久奎玉補任狀

防州國分寺住持職事、對高久奎玉房成補任候、早々被遂入院、眞俗興行尤可爲珍重、別而顯密再興肝要候、恐々謹言

九月十八日

沙門高範 判

謹上 奎玉御房

一三三 毛利輝元書狀

防府國分寺住持職之事、貴下可有御存知之由、彼自寺家僧衆中、以連署申之通令承知候、彌可被抽國家安全誠精事肝要存候、猶國司〔元武〕右京亮可申入候、恐惶謹言

十二月十八日

防府 國分寺高久上人

輝元〔花押〕

一三四 毛利輝元書狀

防府國分寺後住職事、弟子内又者雖爲何之僧、專學文持戒寺家興隆祈禱之精誠無緩方第一、對高久可令忠勤仁被見合

之、向後可被付續之通令承知候、何時茂任任持裁判不可有餘儀候、恐々謹言

六月八日

輝元（花押）

（上書二）
〔防府〕
國分寺

右馬頭
輝元

防府塩川久五郎・野田与三郎、鍛冶安部源五郎、奉行高達・慶本坊・同慶祐・房長・俊房・同慶恩房・慶寶房、知事高盛・慶春坊、大工藤井榮久・与右衛門尉、瓦大工清川屋助、小工瓜生忠安・作右衛門尉
文祿五丙申年三月十一戊寅日

一三五 仁王門建立棟札写

奉建立周防金光明四天王國分寺仁王門一字、奉爲金輪聖皇寶祚安泰、護持大檀主大江朝臣輝元御武運長久、伽藍安全住持沙門高久・一室高宣・二室相眞・三室高祐・東一室高英・東二室高忍・禪光院高琳、寶幢院高譽・地藏院興辨・藏坊高岳・善悅院高惠・眞覺・久惠・久筭・久英・久玉・久學、奉加青銅百疋、昌雲寺並番匠岩屋對馬守・幡生四郎右衛門、助作長府瓜生清兵衛・矢田部与三・横山孫右衛門、番匠藤井新左衛門・藤井源兵衛尉、大工梁尾和次右衛門尉。

一三六 毛利輝元書狀

祈念之卷數洗米到來祝着二候、猶吉事重疊可申候、恐々謹言

（文祿五年）
三月卅日

（毛利輝元）
宗瑞（花押）

國分寺

（上書二）
〔仁王門建立之事〕

一三七 毛利輝元書狀

六月十八日

西大寺
沙門高久(花押)

(上書二)

(防國)

三室高琳殿

一三九 □ 久 書 狀

祈念之卷數并樽代令祝着候、次國分寺仁王門新建立之由得

其心候、猶(原本元吉)榎(榎本元吉)中太可申也

七月七日

毛利輝元
(花押)

國分寺

一三八 西大寺高久書狀

猶々具二承候通、得其心候、以上

書狀之趣、唯今□內證難承知候、尤二候、念之儀□□兔角

旁□之長久可然候樣愚老無別儀候、□□何篇入魂二存候、

□先日之捻玄隆持參各罷下候砌、於佛前二令割形□禪光寺

へ遣候、今以無相違存候條、爲被成御手前可然候樣二肝要

候、隨分年內□候□□□□與存候所二田舎二及一ヶ月二

逗留、辛勞之様子二付而此度不罷上候、來春貴寺可罷上候、

其時可申上候、恐々謹言

十二月十六日

方丈
□久 押字

東室
□

態令啓候、如其表所用付而此者指下候、就者豐心丹一包
五明三本進入候、表音信斗候、當法会二上洛可然候、愚老
役之事、去夏其方以助得乞申、定而能々一生之間無異儀、
其分別不可有相違候、忽々上洛待可申候、恐々謹言

一四〇 國分寺坊中加増狀

尙以登ヶ坊へ三石にて候、以上

國分寺坊中九ヶ坊へ知行三石宛被遣候間、彼寺家廻にて下地可被配渡候、數年被違堪忍、御祈念等所勤之趣申上被成御分別候、此趣坊中衆へも可被申渡候、恐々謹言

慶拾
三月廿七日

佐長
元嘉(花押)

一四一 後水尾天皇御歳書

今上御誕生日

慶長元年丙申

六月四日

(勅書)
光豐(花押)

一四二 後水尾天皇御歳書添書

當今御誕生書付進之候而、防州國分寺被納置御祈念可被申上候也

慶長十七年三月十八日

(勅書)
光豐

一四三 福原廣俊・

榎本元吉書狀

防府國分寺佛性並燈明料之事、當檢地拾五石足諸役御免許之儀候条、此段可被申渡之旨候、恐々謹言

慶長十七
卯月十二日

福原越後守
廣俊(花押)
榎本中務大輔
元吉(花押)

山内九郎兵衛殿

一四四 二聖院別當書狀

今度從惣寺爲御使僧、禪光院被成上洛候、然者貴寺住持職之事蒙仰候、於上方ハ左様之仁鉢も無之候、左様候へハ一室・二室・寶幢院・禪光院其寺々本尊御前ニてさくり御取可被成候か、夫も各々於御辭退者、禪光院をハ是非共く被仰詰候而、檀方ニも早々可有御禮事、又ハ大裏方へ卷數被成御上候而可然之被仰候、一日も急以御集會可被仰定事專一候、猶禪光院江申含候、恐々謹言

五月三日

二聖院別當判

猶々貴寺住持職之事、景尊坊・英輝坊各々衆者若輩ニ御座候へハ先々可有御延引候、後々ハ學文次第可有御沙汰候、追而申候、自惣方爲御音信、料紙十帖和尚様へ送被遣候、自我等能々御禮可申入之旨候、此等趣惣方へ御披露所仰候、以上

防州 國分寺綱維御房 御報

一四五 泉涌寺照慶等書狀

慇令啓上候、本寺泉涌寺住持職之事、貴老僧臘夏次其位相當候間、（毛判書）長門守様江被得尊意、今年年中急度御入院可被勤仕候、若於異儀者從傳奏可被仰達之旨候、爲其如斯候、誠惶誠恐

八月廿三日

泉涌寺役者 照慶 判
法音院 覺宥 判
來迎院 紹專 判
雲龍院 如周 判

防州 國分寺和尚 知事御房

一四六 泉涌寺照慶等書狀

尚々今度者差詰候間、聊御辭退不可有之候、以上

去夏以書狀雖申達候、終返書不承候、先書如申入、本寺入院貴寺臘相迫候所御延引御油斷候、當寺首座西堂衆出世雖相積候、下臘超越儀貴寺御外聞、又長門守様御賢慮如何存候故達而申述事候、若御承引於無之者、於此方先入院可相催候哉、急度御報可承候、滿山評議如此候、恐惶謹言

小春十二日

泉涌寺役者

照慶判

維那律師
修玄判

國分寺和尚 侍者御中

一四七 國司就正・

兒玉元恒書狀

已上

一書令啓達候、御手前内證向可爲御繁多之旨被思召、御裏様より八木三拾俵被遣之由、松坂殿より兩人所迄被仰下候条、則牧野壹岐守方へ申遣、右之八木可相渡候条御請取可有候、松坂殿迄御禮狀御調候而、爰元迄被差越候者便次第差上せ可申候、猶期後音之節候、恐々謹言

七月廿八日

國司就正

備後(花押)
兒玉元恒
淡路(花押)

國分寺

一四八 景尊英照補任狀

防州國分寺住持職之儀景尊房令補任、并皆香衣許可畢、彌律法弘通眞俗圓滿之興基、可爲專要之處執達如件

寬永二年 二月廿九日

景尊房

西大寺 沙門尊智

一五〇 御配所付立狀

御配所付立

一五拾石

以上

佐波郡東仁井令之内、坊中職共二

寬永貳年八月十三日

益田玄蕃頭 (花押)

清水信濃守 (花押)

矢道主殿助 (花押)

防府 國分寺

一四九 毛利秀就安堵狀

當寺住持職之事、各連署之通令承知畢、有入院如前々祈念勤行等可有精誠事肝要候、仍狀如件

寬永貳年八月十日

秀就 (花押)

防府 國分寺英照上人

一五一 女院御所奉書

尚々拙書へ豐心丹一包硯一面被下恭御座候、尙御使僧へ申進候間令免略

候、以上

女御様爲御禮御札四枚御守二卷數一枚御硯貳面豐心丹壹包
杉原拾帖御進上被成候、御機嫌思召則權中納言殿より御文
被爲候條千代も目出度御座候、何様御出京之節得貴意可申
達候、恐惶謹言

〔寛永二年〕

十月三日

弓氣多攝津守

政〔花押〕

國分寺

御同宿中

〔奥書〕

〔寛永二年〕

一五二 毛利秀就禁制

防州國分寺并法華寺領散在中守護使違亂停止之事、任去永
祿拾年八月四日輝元證判之、猶加炳誠之狀如件

寛永四年二月廿八日

秀就〔花押〕

一五三 毛利秀就禁制

禁制

周防國分寺

一於寺中諸人止宿之事

一於寺内馬庭乘、同鞍馬出入事

一於寺邊殺生之事

右三ヶ條堅固加制止訖、若有違犯之族者可處嚴科者也、但

止宿之事者依時宜、至令裁許者非制限、仍下知如件

寛永四年二月廿八日

秀就〔花押〕

一五四 毛利秀就禁制

禁制坊州國分寺并法華寺 安樂寺惣寺領中

(毛利秀就)
(袖判)

一於寺中、從年始御祈禱付而入來聽聞之仁、喧嘩口論會停止之

但、狼藉之族者不依御家人、双方可被成御下知之事

一於寺中、無裁許者甲乙之仁止宿停止之、若有子細裁許者

寄宿之時、女人不可寄宿也、何も無猥可守此旨事

一於寺家寺領、夜盜惡黨出來之時者勿論、喧嘩口論之於子

細者頼不可一途也、從寺家任注進、可被成御下知事

一於寺領山野、竹木採用并土石以下聊以停止之

付、百姓耕作二付而蒞執之牛馬於私曲者相應咎可申付

也

一於寺內、殺生禁斷場乘以下高聲無益之事、諸篇停止之事

右之條々加制止畢、若背此旨、於違犯輩者可處嚴科者也、殊勅願所云御祈禱所、依仰下知如件

寬永四年二月廿八日

益田玄蕃頭(元判)

清水信濃守(景治)

六道主殿助(元兼)

一五五 佐波郡東佐波令之内坪付帳

之内坪付帳

佐波郡東佐波令之内坪付帳

些行米二面書付有之

有坪付所畝石・作人名付、本書之辻繁多之故略

之

以上

田數貳町四反八畝貳拾步

米四拾三石八斗四升

畝數八反壹畝

米五石壹斗四升五合

屋敷數貳ヶ所五畝拾步

米八斗三升五合

茶米壹斗八升

合五拾石定

右者御帳調上ヶ可申之通被仰渡候間、念を入相調申候、以
上

寬永四
十月十七日

右之御帳御用之由被仰渡候間、庄屋申渡念を入調上ヶ申處
如件

如件

同日

宇野壹岐守殿

三井吉左衛門殿

庄屋
小右衛門 印判

南清右衛門 印判
書判

一五六 後水尾天皇繪旨

今度參内之事被聞召詔、彌天下安全寶祚長久御祈可抽精誠
之由者、天氣如此、仍執達如件

寬永五年八月廿七日

防州 國分寺和尚

上書三
防州 國分寺和尚

坊城俊定
右中辨 (花押)

右中辨俊定

一五七 後水尾天皇繪旨

當寺修造之事、以公武之奉加兼都鄙之助緣、宜致再興之經
營、奉祈一天之安全者、天氣如此、仍執達如件

〔寛永五年〕
九月十四日

防州

國分寺

〔國基音〕
右中將
判

〔上書二〕
國分寺

〔控書〕
〔寛永五英照和尚ニ當ル分〕

右中將基音

一五八 勸修寺經廣書狀

今度如先例參内珍重候、任綸旨、彌可被奉祈天下泰平聖運
長久者也、恐々謹言

〔寛永五年〕
九月十六日

防州

國分寺英照和尚

〔勸修寺〕
經廣

〔上書二〕
防州
國分寺英照和尚

經廣

一五九 勸修寺經廣書狀

今度當寺造營之事、任先例諸國勸進之儀被成綸旨訖、彌可
被祈申天下泰平者也、恐々謹言

〔寛永五年〕
九月十八日

防州

國分寺英照和尚

經廣

〔上書二〕
防州
國分寺英照和尚

經廣

一六〇 周防國分寺勸進狀

勸進沙門
請特蒙十方檀那之助緣再興防州國分寺之伽藍狀

夫三寶者一切衆生之所荷恩、人天郡萌所以可欽仰也、堂塔者四海泰平之所致誠、諸尊聖衆所以可集會也、舉世歸依三寶萬民快樂、每邦興隆伽藍天下安寧絲旃、先賢上古之往昔伽藍建造之舊基創於花落及夷境、魏々昂々不可得而稱者矣、爰聖武天皇之御宇每國造國分寺爲勅願之精藍、每月八日轉讀最勝王經、令天下安和朝廷無事、每年安居奉講仁王般若、令國家治平災難不起、加之顯密之勤行晝夜之丹誠、曾不懈者不如獨此勝地、夫本尊藥師如來者、經云、發十二大願令諸有情所求皆得云々、若至志於此尊者悉地何疑、情以衆病逼切無醫無藥、貧窮多苦無親無家者、如來之名號一經於其耳、疾難悉除家屬豐足、或閉牢獄若雖當刑戮、以福德威神力施憂苦解脫之益者也、本願有憑誰不仰之乎、凡如來之慈悲雖廣此尊殊勝、當國之衆固雖多當藍實新、加之中興超請興正菩薩南都西大寺之開山日本自誓受戒高祖再弘通大乘戒律、進道俗男女而令受菩薩之大戒、導飢餓郡類郡而令嘗甘露之妙味、灑定水於法界洗蕩滯非、耀惠光於澆世照破重昏、心地花開薰道樹之春、且觀窓月潔亮圓成之秋宵、淨瑠璃山之淨峰、禽唱諸惡莫作之囑、金光明池之金沼浪浮諸善奉行_之文、從昔日至今日利

益無衰、是以冥感月新甚於盈眼、玄應風生過於徹膚、上有歸依則施天下豐饒之益、下致尊崇則招萬民快樂之福、諸願圓滿之靈場也、男女歸依殊深所求頓成之本尊也、緇素渴仰實盛矣、於信力勇猛之輩者感應何疎、有愁者除愁、有悲者免悲、武勇文道任願成就、福德智慧應求速疾、豈當除病長壽哉、爰當藍五重之塔婆灌頂道場護磨堂鐘樓山門等、從昔日一破洎當曆數歲、青苔久埋礎圯、清雨空灌博瓦、是以俄然奏營造於禁闈、警爾奉勸進之勅璽、弘仁格云、國分寺塔及金堂或朽損、由是天平神護二季、各仰所司以造寺料稻隨即令修、而諸國緩怠曾未修造、非唯露穢尊像、實亦輕慢朝命、宜早隨壞修理不得更怠云々、於他寺曾無此例、當寺尊崇之甚是以可知、然則化大臣之門庭自非諸衆之出乎、乏力以難落、九似之山起於一簣、千鐘之粟生於寸苗、若爾雖寸鐵尺木其施功豈空乎、仰冀宿懷速遂造功事已、於此道場執行結緣灌頂、而令諸衆生投花佛、夫此法者引入兩部萬荼之密場指示即身頓成之現證、不簡道俗男女令得現當之福樂仇則也、伏乞英賢慮斯大事、歡喜布施者、新齊中花之寺摸、兼復西乾之古風、法輪久轉、見聞隨喜等、登天真之智殿、

密室風靜、三界五趣、悉遊法性之製底、皇居恆穩、松栢影
鮮、風雨順時、穀菓咸豐

寬永五_辰九月

謹疏

一六一 勸修寺家

開目内匠助書狀

尊書忝存候、殊爲御音信御札守并御國本之料紙壹束・紫硯
一面・豐心丹一包被懸御意候、忝次第二候、爲御祈禱所被
成御再興度儀二付、禁裏様江御奉加之儀被仰越候、則本所
御情入候而判金壹枚出申候、定而采女ヨリ具可被申入候、
若於爰元相當之御用等候者可被仰聞候、御使僧江申入候条
御報不能具候、恐惶謹言

六月廿六日

國分寺様

勸修寺内

開目内匠助

季正(花押)

一六二 防州國分寺奉加帳

防州國分寺奉加帳

銀子千枚

貳拾枚

(袖判)

防州國分寺奉加帳

(袖判)

金子壹枚

銀子貳枚

防州國分寺被成御建立二付而被成繪旨、以其辻奉加帳二殿

様被成御判候、不依多少、志次第各可有御馳走之旨被仰出

候、恐々謹言

八月朔日

益田玄蕃頭(元押)
清水美作守(花押)
泉治(花押)

松平長門守(花押)

古田兵部太輔

吉川美濃守

屋敷

六道主殿助
元兼(花押)
井原加賀守
元以(花押)
山城守
元任(花押)
元任(花押)

諸御家人中

付、町人百姓等

一六三 吉川家奉加狀

一書奉得貴意候、自美濃守奉加之金子壹枚指上之、可被成

御請取候、猶期後音可申上候、恐惶謹言

十一月十二日

桂左衛門

正紀(花押)

國分寺

御同宿御中殿

一六四 井原彦右衛門等書狀

一筆申入候、先頃申達候防府國分寺奉加之御理被申出候、
いづれも不被差免事二候へとも、彼寺之儀ハ各別之御沙汰
ニ付而、御藏入給額ともニ出銀仕候様ニとの義ニ候、員數
之儀ハ石壹錢宛指し出候様ニと各より被申渡、出銀仕候様ニ
可有沙汰候、右候而來三月中ニ萩御藏本江可被指出候、恐々

謹言

(寛永五年)

辰ノ十一月九日

内 與三左衛門(花押)

井 彦右衛門(花押)

乃美八郎右衛門殿

一六五 防州國分寺奉賀帳

防州國分寺奉賀帳

銀子貳枚 塩治權兵衛爲成申歳女祈念也

銀子壹枚 柴田五郎兵衛爲成申歳女祈念也

一六七 大乘經寄進狀

追而大乘經爲御返禮、銀子廿日被懸御意候、辱奉存候

貴寺大乘經先年煙燒之砌破損仕候由之間、福壽院大乘經就

御所望、別國下寺人末代寄進仕候之條、可被成其御心得候、

末世爲佛法弘通御祈念條、隨分可有御馳走候、爲後日一筆

如此候、以上

寬永七年十一月十三日

算(花押)

福壽院
明算

國分寺様

知事御中

一六六 明正天皇御歳書

今上御誕生日

元和九年 癸亥

十一月十九日

明正

(花押)

一六八 毛利秀就誓願狀

乙未歲誓願狀事

一 愛宕山權現參籠三七日勝軍地藏秘法百座修行仕事并百味上ヶ申事

一 男山八幡宮參籠一七日供養法二十一ヶ座修行并千度御祓百味上ヶ申事

一 鞍馬山參籠一七日多聞天秘法廿一ヶ座修行并百八灯上ヶ申事

一 西大寺愛染明王開帳三七ヶ日間ニ供養法百座可致修行事一天ノ川辨才天開帳三七日間ニ三石秘法百座可致修行事

以上

右意趣者、乙未御歲大檀主御武運長久御息災延壽、殊至寛永十辰三十九歲大厄諸難除諸病退散求願成就、別而者天下大將軍御愛敬存念國中安全如意圓滿所如件

寛永九壬申歲九月十八日

信心願主敬白

愛宕山權現大菩薩

御寶前所

男山八幡宮大菩薩

御神前所

鞍馬山毘沙門天

御寶前所

西大寺愛染明王

御寶前所

天川辨才天女

御寶前所

一六九 毛利秀就書狀

改年之吉事珍重ニ存候、仍樽肴進之候、尙重疊可申承候、

恐々謹言

正月三日

國分寺

長門 秀就 (花押)

一七〇 毛利秀就書狀

改年之吉事珍重候、仍兩樽二折進之候、(毛利顯廣)千代熊息災之由申
越令満足候、彌祈念之儀頼入候、猶重疊可申承候、恐々謹言

正月十九日

長門秀就(花押)

國分寺

一七二 毛利秀就書狀

爲改年之吉事、御祈禱之御守札并扇子一箱送給祝着候、猶重
而可申承候、恐々謹言

二月十六日

長門秀就(花押)

國分寺

一七一 毛利秀就書狀

爲改年之儀、札守并洗米到來頂戴候、自十三日祈念之儀彌
懇祈所仰候、猶永日重疊可申候、恐々かしく

正月廿日

秀就(花押)

國分寺

一七三 毛利秀就書狀

一書令申候、我等事一昨日三日無異儀歸城候、先日も直二
申候様ニ來月廿日以前ニ可有出萩候、仍祝儀計ニ樽香進之
候、猶重疊可申承候、恐々謹言

八月五日

長門秀就(花押)

國分寺

一七四 毛利秀就書狀

一書申入候、歸城候て以後は不申承候、我等事氣分共能候之間可御心安候、子共皆々祈念之儀頼入候、仍兩樽肴二種進之候、猶重疊可申伸候、恐々謹言

十月三日

長門
秀就(花押)

國分寺

一七五 毛利秀就書狀

就我等痘煩、從萩祈念之儀被仰付由候而被遂精誠、卷數到來令祝着候、早速快氣候間可心安候、かしく

二月卅日
助府
國分寺

秀就(花押)

一七六 毛利秀就書狀

一書令申候、我等事氣色能候之間可御心安候、御方氣分共如何候哉承度候、仍兩種進之候、然は用之儀候之間急度爰元可被罷出候、委細は以面可申承候、恐々謹言

三月十二日

長門
秀就(花押)

國分寺

一七七 毛利秀就書狀

當月祈念之札守供物并扇子一箱甘干一箱送給候、喜悅之

候、猶重而可申承候、恐々謹言

九月九日

國分寺

長門
秀就(花押)

一七八 毛利秀就書狀

一書申入候、我等事氣色共能候間可御心安候、御方煩如何候哉、無心元候、不及申候へ共無油斷養生肝要候、爲心添玄春指遣候、仍久年母壹籠進之候、委細山中八郎兵衛可申候、恐々謹言

十一月十五日

國分寺

秀就(花押)

一七九 佐波郡

東佐波令之内坪付帳

佐波郡東佐波令之内坪付帳

合

立石	田	貳畝拾步	米	七斗	次郎左衛門
坂谷	田	八畝	米	壹石七斗	小三郎
松河	田	壹畝	米	貳斗	新四郎
同所	田	四畝	米	九斗	小二郎
同所	田	貳畝	米	三斗六升	與兵衛
同所	田	壹畝廿步	米	壹斗八升	又吉
同所	田	六畝拾步	米	九斗五升	茂左衛門
坂谷	田	拾步	米	三升	同人
松川	田	三畝	米	六斗三升	五郎左衛門
立石(小家在分)	田	七畝	米	壹石六斗八升	弥助
同所	田	五畝拾步	米	壹石五斗六升	新左衛門

同所	田	八畝貳拾歩	米	貳石五斗七升	佐左衛門
同所	田	六畝	米	壹石八斗	清作
同所	田	六畝	米	壹石八斗	徳右衛門
同所 <small>小家在分</small>	田	八畝貳拾歩	米	貳石三斗	與二郎
同所 <small>小家在分</small>	田	三畝貳拾歩	米	壹石壹斗	弥平次
同所	田	三畝	米	九斗	助左衛門
同所	田	貳畝貳拾歩	米	四斗貳升	徳右衛門
同所	田	四畝	米	壹石貳升	弥兵衛
同所 <small>先んじゆ下小家在分</small>	田	九畝	米	壹石八斗九升	孫七
同所	田	壹反三畝拾歩	米	貳石八斗	仁藏
同所	田	貳畝廿歩	米	五斗六升	九右衛門
同所	田	壹段七畝	米	三石三斗	小右衛門
同所	田	六畝	米	壹石貳斗貳升	仁左衛門
同所	田	七畝拾歩	米	壹石六斗五升	小二郎
同所	田	四畝	米	八斗貳升	勘藏
山田	田	四畝	米	六斗	兵藏
同所	田	四畝	米	七斗	傳左衛門
同所	田	三畝廿歩	米	四斗	同人

同所	田	四畝	米	四斗	小右衛門
同所	田	四畝	米	四斗	源十郎
同所	田	四畝廿歩	米	五斗壹升	同人
同所	田	貳畝	米	壹斗	助
同所	田	壹畝	米	四升七合	孫兵衛
同所	田	貳畝	米	九升三合	神兵衛
同所	田	貳拾歩	米	八升	弥兵衛
同所	田	四畝	米	三斗六升	小右衛門
同所	田	三畝	米	貳斗七升	弥兵衛
同所	田	三畝貳拾歩	米	四斗六升	勘藏
同所	田	七畝	米	六斗五升	同人
同所	田	七畝貳拾歩	米	壹石貳斗八升	新四良
同所	田	壹反	米	四斗五升	與二郎
同所	田	三畝廿歩	米	七斗貳升	源藏
同所 <small>若辰</small>	田	拾歩	米	三升五合	同人
同所	田	壹畝	米	壹升五合	小兵衛
同所	田	壹畝	米	四升	
同所	田	壹畝	米	五合	

同所 畠 壹反	同所 畠 貳反壹歩	同所 畠 三畝廿歩	同所 畠 四畝	同所 畠 七畝拾歩	同所 畠 七畝	同所 畠 八畝	同所 畠 七畝	同所 畠 七畝拾歩	同所 畠 四畝	同所 畠 四畝	同所 畠 三畝拾歩	同所 畠 四畝	同所 畠 壹反拾歩	松川 畠 壹段	おたて 畠 壹反拾歩	同所 畠 四畝	同所 畠 四畝	同所 畠 三畝拾歩	同所 畠 四畝	同所 畠 四畝	同所 畠 壹反拾歩	同所 畠 壹段	同所 畠 拾歩	同所 畠 拾歩	天神山の下宮 畠 壹畝拾歩	同所 畠 壹畝拾歩	ひろり 畠 壹畝	
米 壹石四斗	米 三石九斗五升	米 七斗三升	米 七斗三升	米 壹石四斗	米 壹石三斗五升	米 壹石五斗	米 壹石三斗五升	米 壹石四斗貳升	米 七斗貳升	米 七斗七升	米 六斗六升	米 七斗六升	米 壹石四斗壹升	米 壹石八斗五升	米 壹石四斗壹升	米 五合	米 壹升三合	米 四升	米 四升	米 四升	米 四升	米 四升	米 四升	米 四升	米 四升	米 四升	米 四升	米 四升
七郎右衛門	木工允	市郎兵衛	賀兵衛 <small>本上充分</small>	弥太郎	神吉	清右衛門	孫市	総十郎	孫市 <small>小三郎分</small>	吾次郎	孫市	惣右衛門	喜三郎	清左衛門	同人	同人	作藏	仁左衛門	仁左衛門	作藏	作藏	作藏	作藏	作藏	作藏	作藏	作藏	作藏
同所 畠 貳畝	同所 畠 三畝拾歩	同所 畠 貳拾歩	同所 畠 四畝	松川 畠 四畝	同所 畠 三畝十歩	同所 畠 壹畝貳十歩	同所 畠 貳畝	同所 畠 六畝廿歩	同所 畠 壹畝十歩	同所 畠 壹畝拾歩	坂谷 畠 貳畝	同所 畠 貳畝廿歩	同所 畠 貳畝拾歩	同所 畠 拾歩	同所 畠 壹畝	同所 畠 壹畝	法花寺 畠 貳畝	同所 畠 三畝	同所 畠 三畝	同所 畠 三畝	同所 畠 三畝	同所 畠 三畝	同所 畠 三畝	同所 畠 三畝	同所 畠 三畝	同所 畠 三畝	同所 畠 三畝	
米 四斗	米 四斗	米 壹升	米 三斗	米 貳斗	米 三斗八升	米 三斗	米 壹斗八升	米 九斗八升	米 壹斗九升	米 壹斗八升八合	米 六斗	米 三斗	米 四斗	米 五升	米 壹斗七升	米 壹斗七升	米 三斗貳升	米 四斗五升	米 四斗五升	米 四斗五升	米 四斗五升	米 四斗五升	米 四斗五升	米 四斗五升	米 四斗五升	米 四斗五升	米 四斗五升	
五郎左衛門分 作右衛門	總助	茂左衛門	清左衛門	地藏院	惣右衛門	又吉	新四郎	總十郎	次右衛門	孫作請 總助	座頭	木工允	新四郎 <small>小市方</small>	宮ノ坊	喜六	喜六	五郎左衛門	同人	同人	同人	同人	同人	同人	同人	同人	同人	同人	

同所 畠 四畝	茶	米 貳斗四合	孫兵衛
同所 畠 六畝	米 四斗五升	彌兵衛	
同所 畠 六畝貳拾步	米 五斗	德右衛門	
同所 畠 三畝拾步	米 壹斗四升	小次良	
同所 畠 貳畝	米 貳斗	彌平次	
同所 畠 貳畝拾步	米 三斗五合	傳左衛門	
同所 畠 貳畝拾步	米 三升	彌次右衛門	
同所 畠 三畝	米 三升	同人	
同所 畠 貳畝	米 壹斗四升	清左衛門	
同所 畠 拾五步	米 壹升五合	實右衛門	
同所 畠 貳畝	米 六升	清左衛門	
同所 畠 貳畝	米 八升	與作	
同所 畠 貳畝廿步	米 八升	同人	
同所 畠 貳拾步	米 五升	清作	
同所 畠 貳畝廿步	米 貳斗參升	彌平次	
同所 畠 壹畝廿步	米 壹斗九升六合	作左衛門	

同所 畠 壹畝	茶	米 壹升五合	仁左衛門
同所 畠 壹畝	米 四升	太郎右衛門	
同所 畠 貳畝廿步	米 壹升四合	次郎左衛門	
同所 畠 拾步	米 壹升	太郎右衛門	
同所 畠 拾步	米 壹升	久七	
同所 畠 貳拾步	米 三升	與次郎	
同所 畠 貳畝	米 六升	勘藏	
同所 畠 壹畝貳拾步	米 四升	九右衛門	
同所 畠 壹畝貳拾步	米 壹斗參升	小二郎	
同所 畠 壹畝	米 壹斗五合	助右衛門	
同所 畠 四畝	米 壹斗貳升	與二郎	
同所 畠 貳拾步	米 三升	與三右衛門	
同所 畠 貳畝	米 三合	佐助	
同所 畠 壹畝拾步	米 壹斗五升	太郎右衛門	
同所 畠 七畝拾步	米 三斗壹升	孫兵衛	
同所 畠 貳畝拾步	米 壹斗五升	八右衛門	

以上	畠 壹畝六步 <small>松口小家在分</small>	米 壹斗八升	仁左衛門
	畠 壹畝拾步 <small>坂谷</small>	米 壹斗	又左衛門
	畠 壹畝 <small>同所開</small>	米 壹升	小市
	畠 壹畝 <small>山田新開</small>	米 壹升	佐助
	畠 貳畝貳拾步 <small>同所</small>	米 貳斗	神助
	畠 壹畝 <small>同所</small>	米 五升	弥助
	畠 壹畝貳拾步 <small>同所</small>	米 壹斗八升	源藏
	畠 四畝拾步 <small>同所</small>	米 五斗壹升	勘藏
	畠 壹畝貳拾步 <small>同所</small>	米 壹斗七升	源十郎
	茶 壹升五合		
	畠 六畝拾步 <small>同所</small>	米 三斗	同人
	畠 貳畝廿步 <small>同所</small>	米 壹斗貳升	同人
	畠 貳拾步 <small>同所</small>	米 三升	源藏
	畠 壹畝 <small>同所</small>	米 貳升	三助
	畠 貳拾步 <small>同所</small>	米 壹升	神兵衛
	畠 貳畝廿步 <small>同所</small>	米 五升	源右衛門
	畠 貳畝廿步 <small>同所</small>	米 壹斗壹升	弥兵衛

田數三町貳反三畝拾步
 米六拾三石六斗四升五合
 畠數貳町七反九畝拾壹步
 米三拾貳石四斗三升六合
 屋敷數八ヶ所貳反四畝貳拾步
 米三石五斗六升
 茶米三斗貳升五合
 桑七本米三升四合
 并百石定

右御帳雜賀三郎兵衛殿判形ニ、熊野藤兵衛殿與判之前、無
(元租)
 相違坪付調上ヶ申所如件
寛永拾五
 九月九日
 庄屋 孫兵衛(黒印)
花押

右御配帳御奉書之旨を以調上ヶ申所如件
 同日
 南清右衛門(黒印)
花押

右御加増之地打渡如件
 同日
 益田女番頭(黒印)
花押

國分寺

酒谷	畠	貳拾步	米	貳升八合	同人
上院内	畠	四畝七步	米	七斗貳升八合	與市右衛門
酒谷	畠	壹畝貳拾步	米	七升	十藏
上山田	畠	貳畝貳拾步	米	壹斗八升壹合	□七
同所	畠	壹畝貳拾三步	米	壹斗三升八合	宇源治
酒谷	畠	貳畝貳拾七步	米	三斗八升五合	同人
同所	畠	四畝貳拾五步	米	五斗六升四合	惣左衛門
同所	畠	四畝貳拾八步	米	三斗四升八合	力右衛門
同所	畠	壹畝貳拾五步	米	八升六合	拾右衛門
酒谷	畠	貳畝	米	壹斗貳合	嘉左衛門
上山田	畠	壹畝貳拾五步	米	八升六合	清左衛門
酒谷	畠	壹畝拾步	米	六升七合	忠左衛門
同所	畠	三畝拾步	米	六斗八合	太左衛門
上山田	畠	貳畝貳拾步	米	壹斗八升	吉左衛門
上院内	畠	九畝拾五步	米	壹石五斗貳升四合	市右衛門
酒谷	畠	貳畝貳拾七步	米	三斗八升六合	同人
上山田	畠	壹畝七步	米	九升五合	□七
上院内	畠	貳畝貳步	米	三斗壹升壹合	源藏

同所	畠	四畝三步	米	六斗壹升六合	又七
酒谷	畠	貳畝六步	米	三斗三升	善右衛門
上院内	畠	四畝	米	四斗四升三合	市郎右衛門
酒谷	畠	壹畝拾五步	米	貳升七合	市郎兵衛
同所	畠	貳畝貳拾九步	米	貳斗四升三合	步右衛門
同所	畠	壹畝拾步	米	壹斗七升五合	藤八
同所	畠	貳畝壹步	米	三斗五合	善五郎
同所	畠	貳畝壹步	米	三斗五合	善之允
同所	畠	四畝貳拾五步	米	三斗五升三合	文右衛門
同所	畠	壹畝六步	米	壹斗三合	長兵衛
山畠	畠	三畝拾五步	米	三斗五升壹合	仙右衛門
藏田	畠	三畝五步	米	貳斗六升三合	與左衛門
田畠数	米	貳町七反四畝拾六步			
以上	米	三拾四石貳升六合			
内					
畠数	壹町三反八畝拾五步				
拾四石壹斗壹升九合	畠方石貫				
田数	壹町三反六畝壹步				

拾九石九斗七合 田方四ツ成

米 五斗壹升三合 種米元

同 三斗四升三合 作飯米元

右此度國分寺御境内有之田畠前書之辻御除地之御願出相成
御願出之通除被遣との御支ニ付御打渡坪付御帳調上ケ申所

如件

五月 庄屋 重藤正右衛門

右前書之通清算相違無御座候已上

同日 大庄屋 重藤與左衛門

右坪々見分仕無紛存知申候已上

同日 椋山権左衛門

右存知申候已上

同日 神保與右衛門

一八一 祈念覺書

御祈念之覺

- 一 清水寺三年日參代僧を以上下三人にて京都逗留仕右之日參成就可仕事右三人者遣銀つもり立銀ニテ一ヶ月銀百五拾目宛十二ヶ月壹貫八百目三年ニ五貫四百目
- 一 聖天供三ヶ年修行可被仰付候事
- 一 右者諸入目銀ニテ一ヶ月三枚宛壹年三拾六枚三年ニ四貫六百四拾四匁
- 一 求聞持一年ニ七座あて壹座ニ付三枚宛三年ニ貳貫七百九拾目
- 一 七月行七人者三年執行仕事右之諸入目九百三匁
- 一 愛宕山百味上ケ申事壹ヶ月十式匁あて壹年二百四十四匁三年ニ四百三拾式匁
- 一 鞍馬山百味上ケ申事一ヶ月十貳匁一年二百四十四匁三

年二四百三拾貳

一 御伊勢江三年日參可被仰付候事

但内宮外宮諸神共日別銀壹匁五分宛可被遣候事三年二

五百四拾目壹貫六百二十目

一 南都西大寺愛染灌頂開帳共百座之修行可被仰付候事

右之諸入目銀壹貫貳百匁

此御祈念者上様殿様御愛敬能様に御祈念可被仰付候事

一 御日待十二人にて毎月三年修行可被仰付候事此諸入目

壹ヶ月銀ニシテ三十五匁あて三年ニ銀壹貫貳百六拾目

一 訓讀之大般若三部三年ニ南都之東大寺可被仰付候事

此施物一年ニ拾五枚宛三年ニ銀壹貫九百三拾五匁

一 天神へ毎月一度宛御湯立可被仰付候事

一 一ヶ月銀子壹枚三年ニ壹貫五百四十八匁

一 奥州湯殿權現三年參詣可被仰付候事此遣銀一年に貳百

五拾目宛三年ニ七百五拾目

以上拾二ヶ所之御祈念

并銀子貳拾壹貫八百三十三匁定

右御子孫御繁昌爲御祈念爲御遣付立懸御目候 以上

寛永十六年二月吉日

阿曾沼因幡守殿

國分寺(黒印
花押)

一八二 毛利秀就立願狀

乙未之御歳御立願狀之事

一 御伊勢殿 大檀神等可被遂進事

一 熊野開帳 可被仰付候事

一 豊前宇佐八幡 造營被仰付可被遂事

一 嚴鳴鳴廻 可被仰付事但三ヶ年

一 御兩國佛神堂塔諸社造營可被仰付事

以上

右之御願者御子孫得繁昌偏奉祈撰所如件

寛永十六年卯二月吉祥日 大檀主敬白

一八三 大般若信讀料

請取狀

請取申銀子之事

合四拾五枚但壹貫九百三拾五匁定

右者、從 長門守様、信讀之大般若三部三ヶ年ニ執行可仕
之由、被仰聞、施物與而被遣、慥請取申候所、紛無御座
所、如件

寛永拾六年

八月五日

周防國分寺御房

東大寺

沙汰所

重就(花押)

一八四 祈念料請取狀

請取申銀子之事

合四百三拾二匁定

右者 松平長門守様、爲御祈念當山毗沙門御寶前御百味
毎月壹座十二匁宛之勘合を以、三年被成御上ヶ候爲代
銀、慥請取申所、紛無御座候、以上。

寛永十六年

九月五日

周防國分寺

御同宿中

鞍馬山

月性院

賢祐(花押)

一八五 重隆等書狀

御屋形様御祈禱事、於防州國分寺、愛染明王法一万座被行候、五千疋可進之候、可被仰遣候、但今程就御上洛料物拂底候、來月時分可有収納候、然者必々可渡進候、此之由可有御心得候、恐々謹言。

七月廿五日

宗桂（花押）

昌秀（花押）

道興（花押）

正行（花押）

重隆（花押）

松雪庵

侍者禪師

一八六 周防國分寺
護摩堂建立文写

奉建立周防國分寺護摩堂一字、大檀越國主毛利長門守大江朝臣秀就公建立、住持英照、志趣者長子千世熊丸殿爲武運（續左）長久子孫繁昌壽命長遠所願成就矣

寛永十七庚巳年九月吉日

奉行弘中勝兵衛尉就昌

大工藤井次衛門尉、小工引道左兵衛
同小左衛門

防州淨瑠璃山金光明四天王護國之寺、亦號國分寺共、北室住英照、右當藍者聖武皇帝御草創、行基菩薩之開基、覺惠興尊中興復斷絶、茲英照奉勅修造之者也

防府
國分寺

一八七 法皇女院奉加狀

法皇女院奉加之證文

自禁裏護摩堂爲奉加黃金^皇被進候、并天王御影被成御依則□□被仰

付候、猶來春御上落刻可申談候、委細は御使僧へ申渡候、以上

禁裏女院御所中宮御方江如目錄、宜様披露申候處ニ從我等
相心得可申之旨候、隨而我等へ^モ目錄爲悅之至ニ存候、何
様重^ニ而可申^{（以下次）}

一八八 益田就利等書狀

已上

先度被仰聞奉加之儀、組中相催申候處、今程之儀候故もと
をり不申候、雖然邂逅之儀候間各勸進ニ入可申候由候、此
儀ニ此地御滞在候ハ、右之分候條、先御歸寺尤存候、此等
之趣和尚様へ可被仰達候、奉加之儀相調次第ニ急度可贈進
候、可被成其御心得候、恐惶謹言

九月十七日

- 山内大隅守 廣通 (花押)
- 桂河内守 元忠 (花押)
- 榎本中務太輔 元時 (花押)
- 門田隱岐守 元經 (花押)
- 渡邊石見守 廣 (花押)
- 益田修理亮 就利 (花押)

國分寺

知事御中

一八九 國分寺本堂
建立棟札写

奉建立周防金光明四天王護國之寺本堂一字、奉爲金輪聖皇
天長地久寶祚安泰、殊大檀越國主大江朝臣秀就長子千世熊
丸武運長久祈世、北室・一室・二室清三室英東室英東二室
英禪光院高地藏院久寶幢院照善悅院英藏松院久寶壽院光
春英禪光院高地藏院久寶幢院照善悅院英藏松院久寶壽院光
寬永十九歲九月吉祥日

奉行水野衛門丞

大工佐伯源左衛門尉小工

住持沙門英照上人誌之

右國分寺伽藍者聖武皇帝本願、行基菩薩開山之精舎也、依
然破滅之時者遂奏聞、請院宣公武奉加、兼都鄙以助緣再造、
當寺建立時代天平九年与禁裏弘仁格在、然共應永廿四年初
夏不圖燒失七堂、本尊坊舎迄悉消滅、其比當國守護大内德
雄禪定門、本堂並本尊・仁王門・鎮守其外坊舎建、斯時毛

利長門守殿長子千世熊殿爲御武德長久子孫繁榮、本堂・鎮
守・寶壽院・護摩堂並別火所建之者也

一九〇 後光明天皇御歳書

今上御誕生日

寬永十年癸酉

三月十二日

一九一 毛利千代熊祈念狀

千代熊様御一代御きねんなされ候て、めい長久御そくさい
に御さなれ候事
一 御いせとのへまいとし御きねんノ事

- 一 しようてんへまいとし御きねん事
- 一 きよみつくわんおんへまいとし御きねん事
- 一 いつくしま明神へまいとし御きねん事
- 一 てんとうへまいとし御きねんノ事

以上

みきのまへ、まいねん御きねんおうせつつけられ候て、よく御さしこしおうせ上られ候へく候

六月吉日

こくふん寺

板さかとの御中

一九二 毛利秀就書状

一書令申候、千代熊昨日仕合能、公方様御目見相調候て太慶此事候、仍爲祝儀小袖一重銀子五枚樽肴進之候、猶重可申承候、恐々謹言

(正保三年)
三月廿六日

長門
秀就 (花押)

毛利千代熊丸(後の綱廣)正保三年三月二十五日八歳にて初めて御目見なし玉ふ(毛利氏四代実録考證論断九三)

國分寺

一九三 毛利秀就書状

一書申候、我等事息災ニ居申候、千代熊無事之通節々申越満足申候、明廿日ニ爰元早々可被罷越候、仍素麵一箱昆布壹箱樽武進之候、使之驗迄ニ候、恐々謹言

六月十九日

秀就 (花押)

國分寺

一九四 毛利秀就書狀

一書令申候、爲千世熊御目見之祝儀、來月五日能申付候之
條被罷出可有見物候、猶重疊可申承候、恐々謹言

八月廿七日

國分寺

長門
秀就 (花押)

一九五 毛利秀就書狀

一書申入候、我等事息災候間可御心安候、從江戸迄皆々無
事之由到來候、此節は抱瘡はやり候間千世熊祈念肝要存候、
此比御煩能候哉承度候、於快氣は此表可有御越候、必々待
申候、猶重疊可申承候、恐々謹言

霜月十五日

國分寺

長門
秀就 (花押)

一九六 毛利秀就書狀

一書令申候、今日千代熊誕生日ニ付忝祝申候、仍樽肴進之
候、祝儀迄候、猶重疊可申承候、恐々謹言

霜月廿日

國分寺

長門
秀就 (花押)

一九七 堅田就政書狀

一筆申入候、防府國分寺從往古天子之御祈禱被相調、御札
守之儀御手船便を以被差上由候、此儀は余ニ替たる事候間、

自今已後如前々便船有之節は運賃之不及沙汰、使僧并召連候もの共ニ可被差上せ候、爲其如此候、恐々謹言

明暦元
十月十一日

桂筑後守殿

(堅田就政)
堅 安房

一九八 堅田就政書狀

一筆致啓達候、先日者江戸被指上候御簡守、飯田九郎衛門上り之刻被指上せ候様ニと申遣候間、定而疾三田尻迄被指出可被爲置と存候、乍去九郎衛門儀者御用多急き罷上候付而、荷物等奚元ニて任舞爲被儀条、來二日御荷送指上せ候節、右之御簡守請被上候様ニ可申付候間、其刻御上せ尤候。就夫相兵庫兒陸州迄拙者よりの別狀相調其元迄進之候、□□相添御上せ可被成候

一 禁裡様へ御祈禱之御簡守被指上ニ付而、御使僧上下二人便船次第被指上已前之通先日被仰聞候、是又來二日

二□□なと数多指上せ申儀ニ候間、此舟を以上せ候様ニ桂筑後所へ可申遣候条、其元より筑後御問合候可被指上せ候、恐惶謹言

九月廿七日

國分寺

御同宿中

(就政)
堅田安房(花押)

一九九 毛利就方等書狀

國分寺隱居御理之儀相伺候處、彼僧事先年以來別而御祈禱被仰付、今以無怠慢執行仕儀候条、彌此以後不相替御祈禱被仕候様ニと被思召候、就夫爲御祈念料八木貳拾俵充、年々可被遣之旨被仰出候、隱居之儀者先此度不被遂御分別候条、此段可被申渡候、恐々謹言

原信成
二月廿九日

榎 遠江
(懷本) 就時(花押)
兒 淡路
(見玉) 元恆(花押)

福原相模殿(元房)
日野左近殿(從正)

堅安房
采田 就政
益修理
益田 就固
益越中
益田 就宣(元世)
毛宮内
毛田 就方(花押)

二〇〇 毛利就方書狀

一筆令啓達候、御前様御懐胎候処、自江戸去四日之御飛脚にて申來、誠千秋万歳目出度儀不過之候、然者御祈禱之儀委細御支僧へ申含候条、早々御執行候而御札守筈元被指出候て、当月中江戸へ上せ申儀候旨、左様心得壹々不能候へ共、右之趣先御隠密にて候間可有心得候、恐惶謹言

九月十八日

國分寺

毛宮内
就方(花押)

二〇一 長玄坊英意補任狀

防州國分寺住持職之事、令補任英意長玄房江皆香衣許可訖、此条雖不輒事候、爲法器仁故兼者爲律法傳永劫、昆尼來際令弘通授与云々、彌專顯密之修學増挑尸羅之法燈、殊者勵大悲闡提之誓心、奉祈中禁万代之寶祚延長、宜被抽天下安全之祈禱精誠、仍令補任所如件

寛文二年三月十六日

國分寺長玄房

和州西大寺
衆首沙門高喜判

二〇二 毛利就信等書狀

防府國分寺住持職之事、被任先住遺言御手前相續被仰付候

間、寺役等無意如先規可被相勸之旨候、恐々謹言

九月八日

寛文六

就充〔花押〕

就國〔花押〕

就之〔花押〕

就頼〔花押〕

就方〔花押〕

就信〔花押〕

英意御房

二〇三 靈元天皇綸旨

今度參内之事被聞召訖、彌天下安全寶祚長久御祈可抽精誠之由天氣所候也、仍執達如件

寛文七年五月廿六日

〔甘露寺方丈〕
右中辨判

防州
國分寺和尚

〔上書三〕
防州 國分寺和尚

右中辨方長

二〇四 勸修寺經慶書狀

今度任先例被遂參内、院參大慶之由尤候、彌國家安全寶祚延長御祈、可被抽丹誠旨被下綸旨候間可被得其意候、恐々

謹言

〔寛文七年〕
六月五日

〔勸修寺〕
經慶

防州
國分寺英意和尚

〔上書三〕
防州 國分寺英意和尚

經慶

二〇五 靈元天皇御歲書

今上御誕生

承應三年甲午

五月廿五日

御誕生日右之通候愈可被

勵御祈禱者也

寛文七年

六月五日

防州
國分寺住持和尚

經慶

國分寺

新善光寺
孤雲判

二〇七 寺領高帳

當時現寺領高四百五拾六石壹斗八升八合

内

四百貳拾貳石六斗八升八合

國分寺

三拾三石五斗

寶壽院

外二

四拾石

但當時境内山之内採用木賣拂代銀□□元米貳百石、延寶四年貸付相成候利米之辻御奉書在之

二〇六 泉涌寺役者

我休・孤雲書狀

來三月八日者相丁當寺開山正法(後仍)國師四百五十年忌候付、令執行追遠之法會候条、有參洛出頭所希候、就夫被成下繪旨候間、則寫差下候、右之趣其元御家老中并寺社御奉行衆江茂以書狀申入候、猶期其節候、頓首謹言

泉涌寺役者

楊柳寺

一紙五三二
十月十三日

我休判

二〇八 川野高邦・
三宅高喜書狀

御札致拜見候、然者今度御國主御推舉ニ付當寺江御入院之由目出度存候、右之御届且扇子壹箱半紙貳ノ御送入共御念候儀祝着之至被存候、此旨山口へ申入旨御座候、恐惶謹言

七月二十三日

周防
國分寺様

川野中務 高邦
三宅圖書 高喜

二〇九 周防國分寺被官中
間石役除證文

防府國分寺中間共數多有之ニ付、寺修補并掃除等之節罷出、尤殿様御上下上使御往來西國御大名衆御通之節罷出相

勤之由候へ共、右之中間共作分田畠石役之夫役近年大分公儀差出候故、國分寺召仕被申候儀如前々之成兼候付、迷惑被仕候條常々夫役被差免候ハ、國分寺計之役目相勤申候時は、寺内破損も少破之時取繕垣壁其外掃除等相成事有之通旁被申出、御詮儀之上國分寺之義は各別之御沙汰、第一先年申中間分無紛通ニ付、中間分之作石高百三拾三石四斗貳升三合壹勺之石役之夫役被指除候間、自今以後之儀ハ國分寺被申付候役筋、無違背遂其節候様可被申渡候、且又中間共作分ニ對シ物成或ハ出来銀諸懸リ物等之儀ハ前々之分ニ無相違候間、調之沙汰可被申付候、右之中間共抱石之外、此已後買地仕分者地下並之夫役相勤候様ニ可被申付候、恐々謹言

五月十日

井上小兵衛殿

井上 彦右衛門 判
赤 仁右衛門 判

二二〇 東山天皇御歲書

今上御誕生

延寶三乙卯年

九月三日

御誕生日右之通候愈可被
勵御祈禱者也

貞享四年

八月廿四日

防州

國分寺住持和尚

(勸修寺)
經廣

二二一 興正菩薩

四百年忌觸文

相當來已之八月開山菩薩四百年之御忌、就夫恆例之光明眞
言會自六日始行、同廿三日彌陀三昧、廿四日集來、廿五日
舞樂曼荼羅供可有執行之通、國々諸末寺以相觸之候条、各
抛万障被相催僧侶可有御出頭候、寔酌依之一衆、且報恩謝
德、且律法相續之大綱不過之候、仍而一山評定衆儀之處候
也、恐々謹言

(元禄元)

十一月廿五日

西大寺役者

高秀判

同

高算判

周防

國分寺

二二二 東山天皇繪旨

今度參内之事被聞食訖、彌天下安全寶祚長久御祈、可抽精誠之由者、天氣如此、仍執達如件

元祿二年六月十四日

〔坂城後清〕
兵部大輔判

〔防州〕
國分寺和尚

〔上書二〕
國分寺和尚

〔坂城後清〕
兵部大輔後清

二二三 勸修寺經慶書狀

今度任先例被達參内、院參恐悅之旨不能左右者歟、彌國家安全聖祚榮運懇祈、可被抽精誠之趣輪命嚴重之上者、猶以被得其意儀勿論至也、恐々謹言

〔五條二〕
防州
國分寺照空和尚

〔上書二〕
國分寺和尚

〔花押〕
經慶

七月六日

二二四 御座船造替祈禱覺

御座船

鳳雛丸

元祿貳己ノ年此御舟御造替ニ付御拜願物永写記録ニ有之候事

一 御杖式

一 御銀子拾枚

右御祈禱御成就以後國分寺御引取相成候付、爲上使磯兼四郎兵衛を以國分寺へ被遣候

付り、弁添役トシテ小田村佐右衛門被遣候事

二二五 長壽院歳書

二二七 靈元上皇女房奉書

延宝四年丙辰五月十一日辰時

長壽院

二二六 東山天皇女房奉書

周防の國分寺より(今、^年)の御禮として、御(百^拜)もくろくのこと
くしん上候、ひろう申て候へは、めてたくおほしめし候よ
し、よくこゝろ得候て申とて候、此御所よりも杉原十帖・
しろかね二枚出候、御こゝろえ候てつたへられ候へく候、
かしく

勸修寺前(^一終取)大納言とのへ

本院仰年號(^二元禄五)
月日 三廿八

すはうの國分寺より、十帖・御ふた・御くすり・御すゝり
まいり候、日ろう申て候へは、めてたく覺しめし候、此十
帖、白かね二枚、出候まゝ、御心候てつたへられ候べく候、
かしく

くわんしゅ寺前(^一終取)大納言とのへ

仰(^元禄四
^五廿一)

二二八 慈元照崗補任狀

國分寺照空老足其上病者ニ付隠居之御斷相伺候處、如願禪光

院慈元法住職可被仰付之旨候間此段可被申渡候恐々謹言
元禄五
九月廿三日

國主稅
廣通(印)
三郎右衛門
廣行(印)
隱岐
廣俊(印)
越中
就恆(印)
阿波
就宣(印)
杉杜五郎兵衛殿
宍戸八郎左衛門殿

二一九 慈元坊照崗補任狀

周防國分寺住持職之事、令補任慈元房并皆香衣許可畢、爲令眞俗紹隆律法弘通也、彌勵大非之誓心、益挑顯密之法燈、殊者奉祈中禁万代寶祚延長、宜抽一天泰平御武運長久國主安全之懇祈者也、仍令補任狀如件

元禄六年五月三日

西大寺綱維
智教司

一二〇 毛利吉廣歳書

癸丑

松平大膳大夫

正月十二日

吉廣

極月廿七日到着

沙門照空拜誦

一二一 東山天皇女房奉書

すわうの國分寺より、十帖・御くすり・御ふた・御すゝり
參り候、披露申て候へは、めてたく覺しめし候、此十帖、
白銀貳枚出候ま、御心得候て、つたへられ候へく候、か
しく

くわんしゆ寺とのへ

仰元禄七
六廿六

一一三二 靈元上皇女房奉書

周防の國分寺より、ことしの御禮として、御もくろくのこ
とく、志ん上候、日ろう申て候へは、めて度おほしめし候
よし、よくこゝろえ候て申せとて候、此御所よりも、杉は
ら十帖・白かね二枚出候、御心得候てつたへられ候へく候、
かしく

くはせう寺弁とのへ
(福美書)
本院仰元禄七
六廿八

一一三三 寶幢院營作願

覺

一國分寺塔頭往古拾貳坊有之候處ニ、貧地故過半類破仕、
唯今漸三院殘居申候、拾貳ヶ坊何れも當寺境内地數銘々
被付置候、其節天正年中之御加判役衆御判物有之候付而、
則寫相調入御披見候、如古來坊中立居候者律儀如法之出
家淺可致在留候へ共、貧地故塔頭取立不相成、邂逅志之
僧有之候而淺可留足落着無之付而、寺僧取立之儀淺不任
心底候、何とそ漸々ニ寺中取立申度存候、右拾貳坊之内
先寶幢院營作仕度奉存候間、此段被成御沙汰可被下候、
頼存候、以上

元禄八年乙亥
正月八日
國分寺

穴戸八郎(陸奥)左衛門殿
乃美三郎(陸奥)兵衛殿

一二四 乃美三郎兵衛等書狀

尚く御隠居も預御札候へ共、御用多御返答不_レ相成候、

此段被仰達可被下候、委細寶壽院へ申合候間御心得頼存候、

以上

貴寺寺内先年坊中拾貳ヶ寺有之候之處及絶破、漸三ヶ寺殘居候、尤其節之證文寫被差出令承知候、然者右古跡之内、寶幢院頃日取立度候通、扱又末々、拾貳ヶ坊共往古之分、何とそ相成次第造立仕度との儀、御書付之趣令沙汰候處、願之分被遂御分別候条、左様可有御心得候、就夫裏書物壹通相調進候、恐々頓首

元禄八年亥
正月十七日

六 八郎左衛門(花押)
乃三郎兵衛(花押)

一二五 乃美三郎兵衛等
寺領目錄裏書

周防國佐波郡國分寺領目錄之事

合

一米三拾石四升	方丈領
一米五石六升	一室領
一米五石	二室領
一米五石 <small>(壹斗)</small>	三室領
一米五石貳合	東一室
一米四石九斗八升六合	東二室
一米五石貳升六合	禪光院
一米四石九斗九升	寶幢院
一米五石壹升	地藏院
一米四石九斗九升八合	善悅院
	藏坊

一米四石九斗六升八合

法花寺

以上米八拾五石壹斗八升坊領分

一米五拾貳石五斗三升

年中行方

一米拾貳石七斗八升

同護摩料

内三石三斗六升都濃郡持留有之

一米五拾石三升

造營領

以上

并米貳百石五斗貳升

右付立如件

天正拾七年六月六日

湯川〔元帝〕 平左衛門尉〔花押〕
長井〔元親〕 右衛門太夫〔花押〕
國司〔元忠〕 雅樂允〔花押〕
内藤〔元孝〕 余三右衛門尉〔花押〕

國分寺

〔卷二〕 面書之趣令沙汰候處、國分寺寺内之古跡無紛候付可、願
之分被達御分別候条、左様可有御心得候、本書之儀、寺
社所根物ニ相成候ニ付、爲後證寫を以裏書相調進置候、以
上

元祿八年亥

正月十七日

國分寺

〔表〕 佐世廣久
宋 八郎左衛門印判
〔裏〕 乃 三郎兵衛印判

一二二六 佐世廣久立願文

立願文

一金光明最勝王經

十三部

一藥師本願經

十二部

右之御經追付奉請

周防國分寺金堂江奉

納可仕者也依意願如件

元祿丙子正月廿二日

佐世主殿

廣久〔花押〕

奉上

三寶諸天善神

一二二七 手水鉢金石文

丑
九月十六日

安樂寺
地藏院

元祿十丁丑五月 日
地主
重藤與右衛門(百子郎中)

一二二九 國司廣直・

毛利就直書狀

一二二八 照玉補任願狀案文

國分寺住持職事、先住如願隱居、弟子照玉以住職可被仰付
之旨候間、此段可被申渡候、恐々謹言

元祿十年
十月廿七日

國 與三兵衛
廣直(花押)
毛 市正
就直(花押)

六戸八郎左衛門殿

申上候事

國分寺當任此間之病氣不相叶、今朝七ツ時分遷化被仕候、
在世之時分國分寺後任之御斷被申上置候通ニ、隱居弟子照
玉と申僧ニ御願被仰付候様ニ、一山奉願儀御座候、右此段
被達御沙汰可被下、已上

二三〇 毛利昌方歳書

戊午年

三月四日

松平監物

昌方 (花押)

(上書三)

丁丑ノ霜月朔日

御使者中山勘左衛門殿御出

二二二 東山天皇女房奉書

すはうの國分寺より十てう・御札・御くすりまいり候て、
日ろう申て候へは、めて度覺しめし候、此十てう、白かね
二枚出候ま、御心得候て、つたへられ候へく候、かしく

くわんしゅ寺前大納言とのへ

(端裏書二)

仰 元禄十一
三 廿九

二二二 靈元上皇女房奉書

すはうの國分寺よ梨、か禮いのことく、杉原十帖・御ふた・
御藥・御す、り志ん上候、日ろう申て候へは、おもしろく
おほしめし候よし、よくこゝろえ候て申候へく候、此
十帖、しろかね二まい出候ま、よろしく御心得候てつた
へられ候へく候、かしく

くわんしゅ寺前大納言とのへ

仙院仰

元禄十一
四 二

一三三三 萩城内乘輿免許狀

防府國分寺、御城内二ノ曲輪乘輿之儀、前々より御奉書被
差出候間、度々御奉書被差出ニハ及不申さず候間、左様御
心得可被仰候、定御免候御奉書此方無付届乘輿不苦事
候、以上

(張紙二)
元禄十一年戊寅年
五月九日

御隠居
眞光院
満願寺
洞春寺
妙玖寺

御奉書之寫

御一門御簾中迄右之面々二ノ曲輪乘輿被差免候事

此書自御城代所々□可有候事、□御門番所定格書付にて六戸八郎左

衛門方被申候事、何時も無付届乘輿相成事

(張紙二)
元禄十一年 戊寅ノ五月九日
國分寺三十六世
照玉 (在押)

一三三四 城内乘輿許狀覺

一三三五 乘輿免許狀

覺

國分寺

一筆令啓達候、然者貴僧御事舊例御城内二ノ曲輪乘輿可被
差免との儀候條、左様御心得尤候、爲其如此候、恐惶頓首

〔張紙三〕「貞享」
三月八日

毛利八郎左衛門
雅信（花押）

一三六 東山天皇女房奉書

すはうの國分寺より、十帖・御札・御薬・御すゝりまいり候、日ろう申て候へは、めてたくおほしめし候、此十てう、白かね二枚出候まゝ、御心得候てつたへられ候へく候、かしく

くわんしゆ寺とのへ

（端表書）

仰 元禄十二
五 八

一三七 靈元上皇女房奉書

すはうの國分寺より、かれいのことく、杉原十帖・御ふた・御くすり・御すゝりしん上候、日ろう申て候へは、おもしろく覺しめし候よし、よくく心得候て申候へく候、此十てう、志ろかね二まい出候まゝ、よろしく御こゝろえ候て、つたへられ候へく候、かしく

くわん志ゆ寺前大納言とのへ

仙院仰

元禄十二
五 八

一三八 靈元上皇女房奉書

すはうの國分寺より、御かれいのことく、杉原十帖・御ふ

た・御薬・御す、りしん上候、日ろう申て候へは、おもしろく覺しめし候よし、よくく心候て、申候へく候、此十帖、しろかね二枚出候ま、よろしく御こ、ろへ候て、つたへられ候へく候、かしく

くわんしゅ寺前大納言とのへ

仙院仰

元禄十三
四三

二二九九 慈門房照玉補任狀

周防國分寺住持職之事、令補任照玉慈門房、皆香衣許可畢、爲眞俗紹隆律法弘通所授與也、愈勵大悲之誓心、益挑尸羅之法燈、奉祈中禁萬代寶祚延長、宜抽一天泰平四海靜謐、(徳山綱吉)征夷大將軍御武運長久、(毛利吉広)國主安全之祈禱精誠者也、依衆許令補任所如件

元禄十四年五月朝日

西大寺

綱維高旭判

二四〇 東山天皇女房奉書

すはうの國分寺より、十帖・御札、御くすり・御す、り參候、日ろう申て候へは、めてたく覺しめし候、此十帖、白かね二枚出候ま、御心得候て、つたへられ候へく候、かしく

くわんしゅ寺とのへ

仰

元禄十四
五廿四

二四一 東山天皇繪旨

今度參内之事被聞食訖、彌天下安全寶祚長久御祈、可抽精誠之由者、天氣如此、悉之以狀

元祿十六年五月廿二日

防州

國分寺和尙

〔日野燿光〕
右大辨判

〔上書二〕
防州
國分寺和尙

〔日野〕
右大辨燿光

二四二 勸修寺尹隆書狀

今上御誕生

元祿十四辛巳年

十二月十八日

御誕生日右之通候愈可被

勸御祈禱者也

寶永八年

二月十六日

防州
國分寺住持和尙

〔勸修寺〕
尹隆

今度任先例被遂參内、院參恐悅之旨尤不能左右者歟、彌國
家安全聖祚榮運懇祈、可被抽精誠之趣、綸命嚴重之上者、
猶以被得其意儀勿論之至也、恐々謹言

〔元祿十六〕
五月廿八日
防州

〔花押〕

〔上書二〕
防州
國分寺照玉和尙

〔勸修寺〕
尹隆

二四四 毛利吉元歳書

吉元

延寶五丁巳歳

八月廿四日誕生

二四五 潮音寺觀音堂棟札写

于時正徳五乙未歳

現住秀山覺禪

奉再造防州佐波郡桑山潮音寺觀音堂二間半施主五十君清助久

豊

指揮造事 御手洗伊兵衛

五月廿九日 大 工 佐々井與右衛門

二四六 鐘樓門再建棟札写

小 工

山根平右衛門
松村五兵衛

法界道場開普門

尋夫洪鐘功德遍

普門還攝古今門

勝用誰謂易手當今護持

常時報德蒲牢響

壇那命有司換改右樓傾側欄

禎祥遍通鐘樓門

楯破壞再建鐘樓門一字躰製盡

大壇主大江姓毛利右京元矩卿御幼君故位署不具之

仍舊貫嘆德何敢當靈既必應

于時正徳五龍次乙未 仲冬殺旦

響併仰三寶知見矣 敬白

當時現住中興以來四十二世

苾芻義鳳探玄欽誌

執事 時田權大夫源元遠

普請奉行 小嶋八左衛門尉堅正

大 工 河村彌次右衛門正良

大 工

河村彌次右衛門正良

二四七 □ 覺 和 尚 傳

□覺和尚、字一水、姓長井、父名宗養、母小西氏世莖也、宗養之父事武將 亥卒于帷帳中、後家族遷蕩、父遁隱雜邑、師神清髮髻之年、體拔浮飾之世、歲十五投大通事焉空律師、奉信貞恪修習聖訓、十六雜染、自爾抱典籍、扣諸名衲之門戶、十九從東寺寶性院權僧正眞昭受西院流四度之法垂進具年、依焉空師登壇受戒、廿有一隨眞昭闍梨受傳法灌頂于和州忍辱山道場、又陪泉湧之如周長老楞嚴義疏法華科註等講場、以至日往月往深稟周之法要、自元興泉湧之僧侶遞通義路道契至深報恩院之一流、究蘊奧、又就寶輪院僧正宗弘、地藏院一流盡淵底、無遺餘、初大通寺古廢綱紀衰替、師勵法侶、共經始之、今則堂房環合厨庫殷積且重建多聞實報恩德清涼之四院、

嚴衛鼎新諸什器百需之物名莫不備給、闍寺都廬復輪奐者僉師之力也、歲五十一爲性運等之緇徒開兩部灌頂壇、龍肝鳳髓之英髦出于其門者夥之、性運年三十餘早世、嗚呼蘭摧中葉者乎、惠昭照空等上足傳法渴瓶之人而席中杞梓惠苑瓊瑤也、智鳳雖未年登自有超卓勢、師藉南京西大之衆舉補任長老職、泉湧之肯隱長老是又師之地藏院窮源之資也、師性慤實言無苟且、容止肅邑戒行嚴潔長眉廣額道俗入其園域者自欽服、師厭世間之煩梗、鞫身上之病衰、退遯清涼院、專修念佛三昧之淨業、分陰是競可謂不墜靈芝之箕裘、不混迴心之標準者乎

贊曰、古有言、益我貨者、損我神生、我名者教、我身於是師協情於筠、寓清涼輔懷泉石期淨泓、茹蔬味禪細迹人外考盤天倪、吁、誠澹然闍任之士也乎矣。

悲田杜多義岡元久識焉

二四八 照玉 隱居願狀

申上候事

拙僧儀近年病身ニ付、今度隱居之御願申上候、依之後住之儀當寺塔頭禪光院大龍事先住南溪弟子ニ而法流傳受等不残仕置、年齢茂四拾余歳ニ罷成、御祈禱等無忽可相勤者ニ御座候間、此僧ニ後住被仰付被下候様ニ奉願候、此段御老中様迄宜様ニ被仰上可被下候、奉願候、已上。

九月廿二日

國分寺照玉

和智治郎兵衛殿

山田吉兵衛殿

二四九 山内廣通

宍戸廣恒書狀

國分寺照玉依願隱居被仰付、住持職塔頭禪光院大龍ニ被仰付旨候条、此段可被申渡候、恐々謹言

享保七

二月六日

山 縫殿廣通 (花押)

宍 美濃廣恒 (花押)

山田吉兵衛殿

和智二郎兵衛殿

二五〇 中御門天皇繪旨

參内之事所有勅許也、特可奉祈宇内安全寶祚長久者、天氣如此、悉之以狀

享保十年五月十五日

乃城後持
石大辨 (花押)

防州國分寺住持大龍和尚御房

宜集宗門之大德、特設眞如之法筵者、繪言如此、悉之以狀

享保十年八月十二日

石大辨 (花押)

泉湧寺衆徒中

二五一 權中納言書狀

二五三 石燈爐金石文

今度續先師之法流上洛參内恭拜天願并忝姑射竹園恐悅之段
尤幸甚、特被蒙綸命之條、奉祈六合泰平寶祚延長、愈可被
輝眞言秘密之法燈者也、謹言

六月七日

權中納言 (花押)

防州國分寺住持大龍和尚御房

(本堂より見て右側燈爐に)

國分阿練若 (前)

享保丁未年 (横)

(全 左側に)

僧大龍欽誌 (前)

冬十有二月 (横)

二五二 中御門天皇繪旨

來年三月八日當寺開山大興正法國師五百年忌之由既達天聽、

二五四 毛利宗廣歲書

享保二丁酉七月六日

誕生

宗廣 (花押)

二五五 毛利宗廣參詣諸控

一筆致啓達候、殿様今日初而被成御參詣候處、段々御心遣候て萬端首尾能無此上有難仕合奉存候、此度之儀茂偏御心遣故、右之通ニ相調御禮難申盡仕合御座候、右爲御禮代僧差出申候、可然様ニ奉頼候、恐惶謹言

(享保十九年)

五月廿一日

國分寺

(原書) 原 權左衛門様

(別紙) 書院飾附

掛物 三幅對 中上利劔 左右花鳥洞雲筆

御刀掛

(以下略之)

周防國分寺文書二

昭和四十九年六月二十日印刷
昭和四十九年六月三十日發行

発行者 防府市教育委員会

発行所 山口県防府市中央町
二―二五

印刷所 防府市立防府図書館
コロニー印刷